

京都府名誉友好大使レポート集



2024年5月

京都府国際課

目次

※名前またはタイトル部分をクリックすると、該当ページにリンクします。

アッタナジオ ドナテッラ「帰国してから」	1
(平成5年度任命・イタリア出身・コモ市在住)	
<small>しゅう とくけん</small> 修 徳健「青島の歴史風致地域の再開発」	5
(平成5年度任命・山東省出身・青島市在住)	
<small>しょう しんウ</small> 邵 振宇「遠なる長安に遺る遣唐使」	6
(平成18年任命・陝西省出身・西安市在住)	
<small>たん ねい</small> 単 寧「近況報告」	8
(平成18年任命・山東省出身・神奈川県厚木市在住)	
ザオプトラ アントニウス アンドレ「進む円安・薄まる気力」	9
(平成26年度任命・インドネシア出身・神戸市在住)	
ドウガール アレクサンドリア メリー	
「久しぶりの京都の旅」	11
(平成26年度任命・カナダ出身・東京都在住)	
<small>なん きョクケイ</small> 南 玉瓊「中国における日本人と日本企業」	13
(平成26年度任命・黒竜江省出身・東京都在住)	
ガラス セゲル ハビエラ クリスティナ「自然と四季」	16
(平成28年度任命・チリ出身・京都市在住)	
<small>しん かメイ</small> 沈 家銘「エンパワーメントによる持続可能な開発」	18
(令和28年度任命・台湾出身・大阪府在住)	

ロ タツ
[路 達「河南の旋律：大調局の歴史と魅力」](#) 23

(令和29年度任命・河南省出身・東京都在住)

[アッスガイル アシール「地元によるイグサでの伝統工芸」](#) 26

(令和30年度任命・サウジアラビア出身・さいたま市在住)

キン エキエイ
[金 亦衛「活動報告」](#) 28

(令和元年度任命・上海市出身・京都市在住)

コウ ビョウ
[黄 媚陽「外国人労働者の現状と課題」](#) 29

(令和元年度任命・天津市出身・東京都在住)

オウ エンブン
[王 艶文「異文化交流を契機に」](#) 32

(令和3年度任命・河北省出身・京都市在住)

オウ テツ
[王 哲「手抓肉」](#) 33

(令和3年度任命・内モンゴル出身・京都市在住)

ヨウ ガイン
[楊 雅韻「福健と京都の茶文化比較」](#) 34

(令和3年度任命・福建省出身・京都市在住)

リ ハン
[李 帆「京町家の文化と経営と奉公人」](#) 36

(令和3年度任命・山西省出身・大阪市在住)

チョウ ゲツ
[張 玥「春節の締めくくり：元宵節の伝統と魅力を探る」](#) 38

(令和4年度任命・河南省出身・埼玉県蕨市在住)

チン アキホ
[陳 秋帆「異国情緒が漂う上海」](#) 40

(令和4年度任命・上海市出身・京都市在住)

馬 韻婷「カルチャー・ギャップの間を歩きながら」 42

(令和4年度任命・遼寧省出身・京都市在住)

尹 粹娟「京都府名誉友好大使と府民の「つながり」へ」 43

(令和4年度任命・韓国出身・京都市在住)

李 沫「友好大使として」 44

(令和4年度任命・湖北省出身・京都市在住)

王 艶蓉「久しぶりの故郷・大連市」 46

(令和5年度任命・遼寧省出身・京都市在住)

孫 鑫「京都と私」 49

(令和5年度任命・山東省出身・京都市在住)

フィアターラ パトリック

「観光障害」についての考察ーザルツカンマグートと京都を手掛かりに
ー」 51

(令和5年度任命・オーストリア出身・京都市在住)

彭 唯一「地元文化を守る第一歩は？」 56

(令和5年度任命・山西省出身・京都市在住)

マイ アイン トゥ

「京都市内景観論争を経て保存すべきか変化すべきか」 59

(令和5年度任命・ベトナム出身・京都市在住)

毛 嘉琪「歩みたい道」 61

(令和5年度任命・江西出身・京都市在住)

リ 李 佳誠「中国の新年（旧正月）について」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63

（令和5年度任命・上海市出身・京都市在住）

ロー ジン チョン「色とりどりの多民族国家」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66

（令和5年度任命・マレーシア出身・京都市在住）

※居住地は令和6年3月現在

<帰国してから>

氏 名：アッタナジオ・ドナテッラ
任 命 年 度：平成5年度任命
出 身 地：イタリア
在 住 地：コモ（市）在住



人生のある時点で、私は日本にずっと住むかイタリアに帰るかを決断しなければなりませんでした。日本に住むのが大好きだったので、簡単な決断ではありませんでした。日本人は親切で温かい心の人です。さらに、京都は、特に立派な寺院、神社や庭園が数多くある、素晴らしい都市です。

しかし、私は家族が懐かしかったのです。両親は高齢になり始め、初姪が生まれていました。もし日本にいたら、家族と過ごす美しい瞬間はあまりないのではないかと思いました。さらに、私は日本語はまあまあできましたが、自分の考えをより明確に表現するにはイタリア語で話す必要性を感じました。イタリア語の本や新聞、さらにはテレビさえも懐かしかったのです。私は寿司、天ぷら、さらには大学の食堂で食べたチキン唐揚げも大好きでしたが、イタリアのパンやチーズ、その他多くのものが食べたかったです。

それで、第二の祖国である日本を離れることを考えると、イタリアで楽しみにしているものもあり、日本を離れて残念と思っているものもありながら、結局日本を離れました。私の出発の日、電車さえも止まってしまったぐらい、非常に強い台風がやって来ました。あら、出発できないかなと思って、運命が私にここを離れるべきではないと告げているように感じました。しかし、結局空港に到着しました。

イタリアでの生活に再び慣れるのは簡単ではありませんでした。なぜなら、常に日本と比較してしまったからです。私は日本で外国人でしたが、日本での生活はイタリアよりも簡単であると思っていました。日本ですべてがよく整理されていて、すべてが困難なくスムーズに進んでいたのに対し、イタリアではすべてが混沌としていると思っていました。イタリアの政治家が、社会を機能させる方法を学びに、日本に行ってほしいと思っていました。実際はイタリアはそんなに混沌していないと今は思っていますが、当時は一言で言えば、たぶん母国でカルチャーショックを受けていたでしょう！日本とイタリアに同時に住めたらどんなに素晴らしいだろう、と思いました。

信じられないことに、この一見不可能に思えた願いは叶いました！私は、ミラノに支店を持つ日本企業の従業員とその家族にイタリア語を教え始めました。

実は、大学で日本文学を教えたかったのですが、その望みは叶いませんでした。

しかし、おそらくそれが最善だったのでしょう。なぜなら、日本人の生徒の家に入ると、日本で見つけたような温かい雰囲気と親しみやすさを感じたからです。

20年以上、私は日本人にイタリア語を教え、時には展示会で通訳者として働いていました。例えば、私はミラノで行われた日本工芸フェアの際に京都市の友好大使として何日か働いたことを覚えています。後でも言いますが、日本の工芸、特に京都の工芸は本当に素晴らしいと思うので、とても興味深い経験でした。

そして 2020 年の初めに突然すべてが変わりました。パンデミックが到来し、私たちイタリア人は皆ロックダウンに閉じ込められて、公共交通機関や車、さらには徒歩での移動ができなくなりました。買い物に行くにも家を出ることを正当化する証明書が必要になります。要するに、すべてがより困難になったのです。ミラノの日系企業の従業員が家族とともに帰国し、私はオンラインのみで何となく教え続けたが、生徒たちはイタリア語を学ぶモチベーションを失っていました。

特にベルガモではパンデミックのため多くの死者が出たため、その時期は非常に悲しいものでした。

その頃、多くのイタリア人は、生活を立て直さなければなりませんでした。私は、ピアニストの兄と一緒に、音楽分野でECサイトを始めようと考えました。それで、オンライン音楽配信事業を始めました。会社はまだ小さいですが、Spotify、Deezer、その他多くのチャンネルで音楽を配信しているので、すでに世界中で音楽をストリーミングで聴いたり、購入したりすることができます。他のミュージシャンも自分の音楽をアップロードして販売できるサイトを作成しました。(https://monetizeyourcreations.com)

私はほぼすべてのジャンルの音楽が大好きです（しかしラップやヘヴィメタルは好きではありません）。実は、すべての芸術が本当に大好きです。本物の芸術は、良い気分をもたらす調和を生み出すので、人生において非常に重要だと思います。これで日本の話に戻ります。実際、日本文化において美学は基本的な概念です。自然との調和をベースとした日本人の感性にとっても感心します。「もののあはれ」、「侘び」、「寂び」といった概念は、過去のものだけでなく、

現代においても、現代性の表面の下に隠れる、日本思想の根になっていると私は思います。私は、日本人が、イタリア人と同様に、過去の芸術や工芸の伝統を保存し保護することを非常に尊敬しています。これらの伝統は生き続け、将来の世代に生きたまま受け継がれなければならないと思います。

海外の多くの人々は、超高速鉄道など日本の近代性に魅了されています。しかし、私は伝統的な日本に惹かれています。素晴らしい寺院や庭園はもちろんですが、美しい田んぼ、竹林、大きな木造家屋、丘の上の赤い鳥居など、日本の田舎もとても美しいとおもいます。私は日本の都市の古い地域、昔のまま残っている木造家屋や職人の店が好きです。なぜなら、これらのものを見ると時間が消えて、永遠の感覚を感じます。

だからこそ私は日本の工芸に憧れています。伝統に従って手作りされた茶碗や楽陶花瓶を見ると、現実よりも美しく、より純粋で、より神秘的な、別の次元にいるようだと思います。

約30年前の特定の瞬間を今でも覚えています。私は日本に住んでいて、母が訪ねてきたとき、京都の職人の店のウィンドウに素晴らしい大きな花瓶があるのを見ました。そこには、とても明るい青から灰色、そして白まで、とても繊細な色で、薄霧に包まれ、頂上が雪で覆われた山が描かれていました。ずっと見ていてうっとりして購入を考えたのですが、配送が心配だったので残念ながら購入しませんでした。今では買えばよかったと思っています。もう一度見たいなと思います。

素晴らしい美意識、調和、独自性を備えた日本の工芸は崇高な芸術形だと思います。イタリアではまだほとんど知られていません。しかし、日本風の家の素朴さが好きな人たち、特に若い人たちがいます。イタリア人は家の美しさをとても大切にしております。もし日本の工芸品の美しさを知っていたら、喜んでその製品で家を飾るだろうと思います。日本に住んでいた頃、私は何回も京都ハンディクラフトセンターへ行きました。

現在は兄と一緒にEC活動を拡大していきたいと考えています。音楽だけではなく、工芸品にも取り組んでいきたいと思っています。私たちはイタリア内外で、(ドロップ SHIPPINGで)

職人製品を販売するECサイトを計画しています。もし日本の工芸品、特に京都の工芸品を宣伝できれば、とても嬉しいです。京都府名誉友好大使としていただいた奨学金への恩返しの意味も込めて。

要するに、日本は私を暖かく歓迎し、西洋ではまだあまり知られていない、日本世界への扉を開いてくれたのです。少し離れた、少し内気な世界の美しさ、

深さまたは神秘性を明らかにしてくれました。

イタリアへ帰ってから、何年もたちましたが、よく日本のこと、特に京都のことを思い出しています。京都はとても懐かしいので、遠く離れていても、何らかの形で再び私の日常生活の一部になることを願っています。

＜青島の歴史風致地域の再開発＞

氏 名：修 徳健（シュウ トクケン）
任 命 年 度：平成5年度任命
出 身 地：中国山東省青島市
在 住 地：青島（市）在住



青島駅から歩いて5分のところに青島を代表する観光スポットである栈橋があります。海岸から400メートルぐらい離れた海に伸びており、名所として大勢の観光客が訪れている。その栈橋を一直線で結ぶ道路は中山路で、かつての繁華街でした。道路の両側に、店は軒がつながり、洋風の建物など立ち並ぶ異国情緒あふれる歴史風致地域として20世紀90年代までは、青島で最もにぎやかなところでした。しかし、その後、市域の拡大により、市の中心部は東部の新市街地に移り、ここを訪れる人が少なくなり、しだいに活気を失ってしまったのです。

その中山路を中心とする地域では、再開発（すでに地下鉄が開通している）によって、2024年の春節を前に再び活気がよみがえり、全国でも有名な歩行者天国となって注目されています。

この旧市街地再開発プロジェクトが去年から急ピッチで進められてきました。この再開発事業は、古い建物のリノベーションや新しい施設の建設などを通じて、歴史的な街並みと現代的な魅力を融合させた形で完成を目指しています。その変化の様子を見てみよう。

- 1) 建物の再利用：かつての集合住宅である「里院」が、クリエイティブなオフィスやショップ、レストランに生まれ変わりました。かつての古びた建物が、リニューアルされ、美しい建物へと生まれ変わりました。これにより、新しい活気あふれるエリアが形成され、観光客や地元住民が訪れる場所となっています。
- 2) 公共スペースの整備：再開発に伴い、広場や歩道が整備され、人々がリラックスできる空間が増えました。市民は、日常の憩いの場としてこれらの公共スペースを楽しんでいます。
- 3) 文化と芸術の振興：新たなギャラリーやイベントスペースがオープンし、文化と芸術の交流が盛んになっています。地元アーティストやクリエイターが活躍し、地域の魅力がさらに高まっています。
- 4) 環境への配慮：再開発プロジェクトでは、環境への配慮が重視され、持続可能なエネルギー利用や緑化が推進されています。旧市街地の景観や環境を守りながら、市民に快適な生活環境を提供しています。

これらの変化によって、青島市の旧市街地は新たな魅力と活力を取り戻し、2024年の春節からは、市民や訪問者にとって心地よい場所となって全国から注目されています。

＜遠なる長安に遣る遣唐使＞

氏 名：邵 振宇（ショウ シンウ）
任 命 年 度：平成 18 年度任命
出 身 地：中国 西安市
在 住 地：西安市在住



日本は奈良時代と平安時代、およそ 15 年から 20 年に 1 度、大規模な使団を中国に派遣していた。特に、大宝律令の完成で日本の律令国家体制が確立してから、多くの留学生・留学僧を唐に派遣し、唐の先進文化を吸収する一方で、東アジア情勢を把握することも遣唐使派遣の目的になっていた。当時、遣唐使の目的地は遠方の長安で、渡航は、航海や造船の技術が未熟な上、大海を横断する航路をとったこともあって、極めて危険であった。しかし、遣唐使に向かった留学生や学問僧たちは、数多くの困難を乗り越え、唐の文化を日本に伝える上で大きな役割を果たした。その中には吉備真備、阿倍仲麻呂、空海など中国と日本両国の歴史上で名を残す者もあり、彼達が発揚した文化と異域探知の勇氣は人類の交流史に跡を残している。今、彼達が活躍した唐の京である長安は西安に改名をし、一千万人以上の人口を持つ大都市になっている。現代的な町並みの中では、遣唐使達の物語がまだ少し垣間見える。西安市の古い城門である永寧門下の公園には吉備真備の記念園があり、唐時代の皇宮である興慶宮遺跡公園の中では阿倍仲麻呂の記念碑があり、唐青龍寺遺跡公園には空海の記念碑と記念堂が建設された。千年の歴史を経ても、文化と交流の魅力が今、輝きを放っている。





<近況報告>

氏 名：単 寧 （タン ネイ）
任 命 年 度：平成18年
出 身 地：中国山東省
在 住 地：厚木市在住



この間、二十年ぶりに中国で春節（旧暦のお正月）を過ごしました。日本では旧暦のお正月に休みがないので、なかなか中国に帰るチャンスがなかったですが、旦那の祖母が九十歳のお誕生日を迎えるため、家族三人で一時帰国することにしました。

日本のテレビでも報道されたと思いますが、春節は「民族大移動」の時期で中国の新幹線の切符の入手ですら極めて困難でした。日本から中国の上海に帰る便はそこまで混んでいませんでしたが、上海から旦那の田舎（江西省）に行く新幹線は満席でした。上海の虹橋駅は大変混雑していたので、新幹線乗り場まで着くに一苦労でした。

ですので、新幹線に乗るまではかなりの緊張感がありましたが、大自然に囲まれた田舎に着くと、次第に気持ちが楽になり、リラックスできました。世界中の大都市はみんな似ていますが、田舎はそれぞれ「個性豊か」です。旦那の田舎は山の奥にあり、近くには「三清山」という有名な観光地があります。「三清山」は世界遺産にも登録されているので、たくさんの観光客でにぎわうイメージですが、冬は人が少ないです。春節に近づくと、地元の人たちはみんなお祝いパーティーを開いて楽しんでいます。

そして、春節と言えば「爆竹」です。今中国の都市は禁止されていますが、田舎は爆竹を鳴らすことを許されるところが多いです。旦那の田舎では爆竹を鳴らす人が多く、大晦日にはずっと爆竹の音を聞いていました。普段大都市で頑張っている親戚はみんな日々の生活の忙しさから解放され、笑顔が溢れる時間を過ごしていました。

世の中は一家団欒より幸せなことがないかもしれません。だから、みんなどんなことがあっても何日かけても春節に自分の田舎に帰ると思います。

春節が終わると、私たちはまだ上海に戻る新幹線に乗りました。新幹線に乗ってから自分の席に着く迄十分以上かかりました。私の想像以上に人が多かったです。みんな故郷でたくさんの良い思い出を作って、改めて家族のために頑張ろうと思ったでしょう。

私はまた近いうちに日本で両親と笑顔で会えることを楽しみにしています。

<進む円安・薄まる気力>

氏 名：ANTONIUS ANDRE ZAOPUTRA
(アントニウス・アンドレ・ザオプトラ)
任 命 年 度：平成 26 年度任命
出 身 地：INDONESIA
在 住 地：神戸市在住



「最近、商売はどうや？もーかってまっか？」関西人の商売人なら誰も口にすることがあるこの言葉は、皆さんもちろん耳にしたことあるでしょう。

社会人として多忙な日々を送っている私は、2023年10月28日に京都府の活動で「令和5年度京都府WWL高校生サミット」にファシリテーターとして参加させていただきました。京都や秋田そしてオーストラリアの高校生たちが、短時間の間にサステナブルなツーリズムについて議論しました。

コロナをあけてから2年以上が経ち、行き来が自由にできる世界の人々が夢も見ていた海外旅行先の1位は、ダントツで日本だそうです。日本に申し分ない魅力に加え、去年から円安が進む影響で、日本旅行が途轍もなく安く感じており、年末セールのように人が溢れかえって来日しています。

一見喜ばしいことにみえるが、実はそうではなく、むしろ私は悪影響が非常に大木ではないでしょうか。京都を含む日本の大都会がオーバーツーリズムに悩まされていることは事実です。マナーの悪い外国人観光客のニュースはたまに耳に入ったりしませんか。そして、京都と真逆で、観光資源があるものの知名度が低い日本の田舎は、円安の恩恵を受けず、観光収入が増えないことに悩まされています。インターネットをいくら駆使しても、結局東京や大阪、京都に集中してしまいます。

私の今の仕事はコーヒートレーダーであり、毎西欠かさずコーヒー相場やUSD/JPY 為替相場をチェックしています。輸入商品であるコーヒーは、この円安に直で打撃を受けて、かなり厳しい戦いが続いています。また、物価高や増税、人口減、地震災害への復興、(言いたくはないが、政治への不信) などがあり、日々生活するだけのコストが重なり家計も厳しくなっています。その中、コーヒーを買うためのお金はどこにあるのでしょうか。去年、日本のコーヒー消費が7割に減っているほど、業界は大変で余裕がなくなっています。オーバーツーリズムの恩恵は、受けているかどうか、正直微妙です。

世界情勢が最悪な今日の世の中に、私たちはまだ日本で平和に暮らしていることだけで十分大きな奇跡であると思いますが、一日でも早く円高に戻り、より豊かな生活（心も財布も）ができますようにと、祈るばかりです。



<久しぶりの京都の旅>

氏 名：ドゥガール・アレクサンドリア

任 命 年 度：平成26年度任命

出 身 地：カナダ

在 住 地：東京都在住



(私が撮った写真です。)

私は3年に京都に住んだことはありますが、2016年まででした。今考えると時間が経つのが早いと感じます！

去年は東京にいまして、2日間の京都の旅行ができました。短かったですが簡単に久しぶりの京都の印象を紹介したいと思います。

東京に比べると、京都のビルが割と低くて、おそらく桜の時期が終わりましたので観光者はその時期にそんなに多くなかったので少し落ち着いた街だと感じました。京都に住んでいた頃の大好きな場所、宇治（上の写真は相変わらず綺麗な平等院です）や醍醐寺に行って、京都の緑の美しさをもう一度経験することができました。特に醍醐寺に観光者はびっくりするほど少なくてとて

もラッキーだと思いました。ゆっくり回って醍醐寺の緑と素敵な雰囲気を楽しめました。



(私が撮った写真です。)

夏でしたので美味しい抹茶パーティーやざるそばを食べました。

私は写真を撮ることが趣味です。もう一度京都の観光地の写真を撮ることができて非常に嬉しかったです。京都のバスと地下鉄に乗ることも結構懐かしかったです。特に京都の地下鉄の京都っぽい音が好きです！それに、昔に私がいつも利用した駅に降りてとても懐かしかったです。

相変わらず暑かったですが、京都の美しさは変わらなかったのもとても楽しかったプチ旅でした。もう一度昔の好きな場所に行ってよかったです。さすが京都は素晴らしい街だと思います。

京都、素敵な旅ありがとうございます！

<中国における日本人と日本企業>

氏 名：南玉瓊（ナンギョクケイ）
任 命 年 度：平成 26 年度任命
出 身 地：中国黒竜江省
在 住 地：東京都在住



1. 海外における日本人の分布

2023 年 10 月の時点で、日本以外の国・地域に滞在する日本人の人数は 1,293,565 人である。地域別に見た場合、日本人が一番多く滞在するのは北米で、そこには 489,732 人の日本人がいる。二番目に多いのがアジアである。アジア（日本以外）における日本人の総人数は 355,543 人で、その中で日本人が一番多く滞在する国は中国である。

2. 中国における外国籍居住者の概況

2020 年に行われた中国の人口センサスの統計データによると、中国における外国籍居住者は合計 845,697 人である。国別に見ると上位 5 か国は、ミャンマー（351,248 人）、ベトナム（79,212 人）、韓国（59,242 人）、アメリカ（55,226 人）、日本（36,838 人¹）である。年齢別に見ると、20 歳未満人口が約 19%、20 代と 30 代が約 55%、40 代と 50 代が約 23%、60 代と 70 代が約 3%、80 歳以上は約 0.3%を占めている。また、省（日本の都道府県に相当する）別に見ると、外国籍居住者の多い順に雲南省（44.5%）、上海市（11.8%）、広東省（9.3%）、北京市（5.3%）、福建省（4.2%）である。

3. 中国における日本人および日系企業の分布

まず、中国における日本人の人数の推移と地域的分布について見る。1996 年からの『海外在留邦人数調査統計』データを見ると、中国における日本人の人口推移は表 1 のとおりである。ピークは 2012 年で、15 万人余りが中国に滞在していた。2023 年現在、中国における日本人の人数は 101,786 人で、そのうち長期滞在者は 96,420 人、永住者は 5,366 人である。成人と未成年で分けると、成人の人数は 86,526 で、未成年は 15,260 人である。

¹ この数値は表 2 における日本側の統計人数（111,769）と比べると約 3 分の 1 にあたるが、両国の統計基準などの差異に起因すると考えられる。本稿ではこのような差異を認めつつ、統計資料を参考に考察する。

表1 中国における日本人の人数の推移

年	人数	年	人数	年	人数
1996	19,379	2006	125,417	2016	128,111
1997	46,821	2007	127,905	2017	124,162
1998	44,657	2008	125,928	2018	120,076
1999	43,997	2009	127,282	2019	116,484
2000	46,090	2010	131,534	2020	111,769
2001	53,357	2011	140,931	2021	107,715
2002	64,090	2012	150,399	2022	102,066
2003	77,184	2013	135,078	2023	101,786
2004	99,179	2014	133,902		
2005	114,899	2015	131,161		

出処：外務省領事局政策課『海外在留邦人数調査統計』を参照して作成。

2017年から2023年まで、中国の内陸地域で日本人がもっとも多く滞在する6つの都市としては多い順に、表2のとおりである。上海に日本人が一番多く、次は北京である。第3位は広州であったが、現在は蘇州とほぼ同じぐらいになっている。第5位は概ね大連だったが、現在は深圳と逆転している。

表2 日本人がもっとも多い6つの中国の内陸都市

2023		2022		2021		2020		2019		2018		2017	
都市	人数												
上海	37,315	上海	36,614	上海	37,968	上海	39,801	上海	41,756	上海	40,747	上海	43,455
北京	5,534	北京	6,661	北京	7,617	北京	7,730	北京	8,151	北京	8,197	北京	8,126
広州	5,383	蘇州	5,178	蘇州	5,753	広州	5,881	広州	6,960	広州	6,833	広州	7,396
蘇州	5,312	広州	5,166	広州	5,419	蘇州	5,855	蘇州	5,635	蘇州	5,171	蘇州	6,507
深圳	3,600	深圳	3,463	深圳	3,746	大連	4,068	大連	4,787	大連	4,689	深圳	5,325
大連	3,067	大連	3,062	大連	3,478	深圳	4,064	深圳	4,441	深圳	4,345	大連	4,840

出処：外務省領事局政策課『海外在留邦人数調査統計』を参照して作成。

次に、日系企業について見る。2017年の時点で、中国における日系企業（拠点）数は32,349で、日本を除く国・地域の中では一番多く、それは少なくとも2011年から続いていた。表3は海外の都市別日系企業（拠点）数上位10位表である。中国の内陸地域を見ると、上海、大連、北京、青島、天津などが挙げられている。この結果を「表2 日本人がもっとも多い6つの中国の内陸都市」の2017年の都市と比較して見ると、必ずしも日系企業（拠点）が多い中国内陸の都市と重ならない。例えば、大連、青島や天津には日系企業（拠点）が多い割に、日本人はさほど多く居住していない。逆に、広州、蘇州、深圳には日系企業（拠点）数の割には、日本人が多く居住していることが分かる。

表3 都市別日系企業（拠点）数上位10位

順位	2017年		2016年		2015年		2014年	
	都市名	企業数	都市名	企業数	都市名	企業数	都市名	企業数
1	上海	10,043	上海	10,086	上海	9,962	上海	9,744
2	バンコク	1,935	大連	1,667	大連	1,691	大連	1,736
3	大連	1,550	香港	1,376	香港	1,358	香港	1,388
4	香港	1,378	シンガポール	1,141	シンガポール	1,116	青島	1,044
5	シンガポール	1,199	バンコク	1,050	北京	1,036	北京	1,041
6	北京	984	北京	1,008	バンコク	1,010	バンコク	940
7	青島	974	青島	954	青島	832	シンガポール	779
8	ロサンゼルス都市圏	832	ロサンゼルス都市圏	757	天津	762	ロサンゼルス都市圏	760
9	ホーチミン	801	ホーチミン	712	ジャカルタ	759	天津	752
10	天津	691	天津	710	広州	716	マニラ首都圏	688

出処：外務省領事局政策課『海外在留邦人数調査統計』を参照して作成。

4. まとめ

本稿では、日中両国の統計データを用いて、海外における日本人の分布、中国における外国籍居住者の状況を概観した後、中国における日本人および日系企業の分布について見てきた。

その結果、以下のことが明らかになった。まず、中国は日本人が日本以外のアジア地域で一番多く居住する国である。次に、中国における日本人の人数のピークは2012年であった。第三に、中国における日系企業の地域的分布状況と日本人の居住分布は必ずしも重ならない。

参考資料・URL

外務省領事局政策課（2023）『海外在留邦人数調査統計』

<https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fwww.mofa.go.jp%2Fmofaj%2Ffiles%2F100293778.xlsx&wdOrigin=BROWSELINK> 最終閲覧日：2024年2月15日

最終閲覧日：2024年2月15日

国務院第七次全国人口普查領導小組弁公室編（2020）『中国人口普查年鑑』

<https://www.stats.gov.cn/sj/pcsj/rkpc/7rp/zk/indexce.htm>

最終閲覧日：2024年2月15日

<自然と四季>

氏名：ガラス セゲル ハビエラ クリスティナ
任命年度：平成 28 年度任命
出身地：チリ
在住地：京都市在住



私はチリから来ました。チリは南アメリカにある長い国です。私は首都のサンティアゴで生まれ育ちました。国の中央に位置しています。日本と同じように、春、夏、秋、冬の四季があります。しかし、サンティアゴの夏は乾燥しており、冬はその年によっては非常に雨が多いです。私は特に、チリに住んでいたときの春と夏が好きでした。春は天気が暖かくなるので外で過ごすのが気持ち良く、独立記念日のお祝いがあり、みんなが祝いの雰囲気になります。友達や家族と集まって、美味しい食べ物を食べながら楽しい時間を過ごします。私はまた、夏が好きで、家族と一緒にビーチで夏休みを過ごすことができました。



チリ独立記念日祭り、サンタクルス

私は約 8 年前に京都に来ました。ここでも四季がありますが、私がそれらを経験する方法は変わりました。ここで私は自然の変化の美しさを価値あるものとするのを学びました。私の国でも花が咲き、木々の葉の色が変わることがあります。しかし、京都で私は実際に周りの小さな魅力的なディテール（四季ごとに）に注意を払うようになりました。

私は京都での最初の春を覚えています。友達が土曜日の朝に大原のアジサイの庭を見に行こうと誘ってくれました。花を見に庭に招待されたことは私にとって不思議な誘いでした。

しかし、大原の庭に到着すると、それがどれほど美しいかを実感しました。それは本当に息をのむような景色でした。以来、私は日本での四季、そしてそれらの季節中の自然がどれほど重要かを認識するようになりました。8年後、今も私は友人と嵐山、鴨川、御所など、さまざまな場所で花見を楽しむことができます。さらに、紅葉や咲いている花を見るたびに、立ち止まってそれを見て、単純なことの美しさを思い出すために写真を撮ることがあります。家族を訪ねるために国に戻ったときも同じことをして、この経験を他の人と共有しようとしています。また、子供たちにも、日本で学んだ自然の小さなディテールへの愛情を伝えたいと思います。



大原アジサイ

<エンパワーメントによる持続可能な開発>

氏 名：沈家銘（シン カメイ）
任 命 年 度：平成 28 年度任命
出 身 地：台湾 高雄市
在 住 地：大阪府在住



1、はじめに

持続可能な開発目標（SDGs）と国際協力

私は 2013 年に米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校でサマーセッションの授業を受けた。当時、世界銀行で働いている Stephen Commins 教授の国際開発の講義を受け、私はとてもインスパイアされた。先生自身は世界銀行のカンボジア援助計画に参加している。先生は講義の中で「現地の人々の観点から国際援助を実施するのは大事である。国際開発援助は先進国の押し付けではなくて、現地エンパワーメント（empowerment）が何より重要である。」と強調した。

エンパワーメントとは開発援助において途上国の自立を促進するために行われることである。サマーセッションを終え、帰国したのち、私はカンボジアに対してボランティア活動を行っている台湾の NGO 組織 CTEP (Cambodia Taiwan Education Program) に入り、1 ヶ月間現地で国際協力活動を行った。私がカンボジアに滞在していた時、当時小学生くらいであろう子供たちが、ゴミ箱の食べ物を漁ったり、捨てられているペットボトルを集めてお金に換えている現状を見た。カンボジアでは義務教育であるはずの小学校へ行くでもなく、勉強するでもなく、生きるために生活している姿にショックを受けた。

私は「世界の人々は平等に生きるべきだ」と信じている。2016 年においては、アフガニスタンの GDP は一人当たり 5 百 6 0 ドル、対する米国のそれは 5 万 7 千ドルである。昨今新自由主義のグローバル化が進展する一方、同じグローバルヴィレッジであったとしても、先進国と途上国には大きな格差が存在している。どのように人的資本の蓄積によって持続可能な開発目標（SDGs）を達成し、そして貧困と格差問題を解決していくべきかということはこの論文で提起したい。

2、海外援助の現状と課題

途上国で深刻な貧困問題と極端思想の蔓延は犯罪と国際テロの温床である。現在先進国はテロ事件と経済危機に伴い、世界各地で自国優先主義や排外主義が高揚しつつある。先進国から途上国への援助額が大幅に減少しつつある。こ

うした近視眼的な海外援助政策は悪循環に陥る可能性がある。したがって、貧困撲滅と平和教育という目標を掲げる国連の持続可能な開発目標の実施は、何よりも重要だと考える。

持続可能な開発目標（SDGs）の達成に伴い、途上国の貧困削減とテロの極端主義の思想蔓延を抑えることができると信じている。世界市民として各国の方々には海外援助を通じ、途上国への人的資本蓄積と教育水準の向上が喫緊の課題と痛感する。カンボジアの例としては、日本がカンボジアなどの途上国にとって重要な援助供与国である。そして、各国のカンボジアでの海外協力プロジェクトがほとんどはインフラ整備計画である。しかしながら、途上国で最も必要なのは教育システムの再建と人材の育成である。

1970年代の内戦に伴い、ポル・ポト共産政権統治下のカンボジアの知識層とエリートたちは虐殺された。国連の持続可能な開発目標（SDGs）の中で、基礎教育の再建は脱貧困の鍵である。しかし、現地の教師の待遇はよくなく、ほとんどはパートタイムの職と掛け持ちしていて、授業に専念できないという事情があった。

私が駐在した CTEP という NGO 組織が現地の児童のパソコン IT 教育や中国語、英語教育を無料で提供している。この NGO 組織を通じて、将来には彼らは通訳者やガイドさん、台湾系企業で働く事ができる。若者は国の将来の柱である。カンボジアで余裕なお金がなく、進学の道が絶える学生は少ないとは言えない。従って、人的資本の投資はインフラより重要だと考える。

インフラのモラルハザードを引き起す可能性もある。例えば、農村地域で国際協力機構の資金で道路が整備された。しかし、この綺麗な道は村長のための道だった。そして、カンボジアで孤児院の数は急増しつつある。なぜなら、最近先進国の観光客が孤児院を訪問して、寄付金を払ってもらったために、貧しい生活風景を作っていたからである。しかし、この児童たちは学校に進学しなく、孤児院の見学物になった。

お金をあげるより、自立する事が大事だ。人的資本による、後発性の利益をいかしたのは資源のない台湾と日本の経済奇跡が成し遂げら鍵である。このような発展経験が発展途上国で実施されれば、貧困状態と貧困によるテロを撲滅するはずと信じている。

3、NGO における草の根レベルからの海外協力

①人材育成のイニシアティブ

人間の能力向上のために教育の投資は必要です。その投資によって蓄積された能力は人的資本（human capital）と呼ばれる。情報社会の現在、この教育

格差は若者未来の発展に直接に関連がある。そして、地元の教育人材育成は極端思想を防ぐことができると考える。私のイニシアティブは人材育成プロジェクトがアフリカ、アジア、中東などの開発途上国（Less Developed Country, LDC）で実施されべきだ。その海外協力を通して、国際援助機関の人々と地元の人との心と心の触れ合いを増やすことが開発援助政策成功の鍵と考える。従って、エンパワーメントは重要だ。

アメリカや台湾は、「Teach for America」、「Teach for Taiwan」など現地の名門大学の大学生やエリートを募集し、辺鄙な農村部や学力が低下している地域へ派遣し、地域格差を是正する。台湾ではすでに ICDF 国際合作発展基金会の協力プログラムという国際協力政策が各国から大きく評価された。しかし、今の国際機関の援助政策で草の根レベルから現地の人々の教育訓練はまだ不十分と考える。私は途上国での現地の人材を育成し、Teach for LDC という夢の教師をイニシアティブする。この人と人の絆は将来の国際平和ネットワークの形成は役に立つと考える。教育人材育成教育を受ける彼らは将来先進国と途上国の架け橋の役割を果たす。

②国際 NGO 組織の役割

MSF（国境なき医師団）はフランス発の NGO 組織で、1999 年にはノーベル平和賞を受賞した。内戦中や途上国の人たちの命を救って、国際 NGO として国境を越えて強い影響力を持った。そして、バングラデシュ出身の経済学者ムハマド・ユヌスが作ったグラミン銀行（NGO）は草の根レベルとして活動した良い例である。NGO における官民協力は地元の視点から出発する。現在の開発援助はほとんどが国主導である。つまり、各国の政府間のみで行われ、支援を受ける国民のニーズに十分に答えていないように思える。

かつての援助政策は国のレベルからトップダウンで行っていたが、今では草の根レベルから NGO と NGO の間、ひいては世界銀行などの国際機関と現地 NGO 協力関係のボトムアップで行っており、本当に地元の貧困状態を改善できていると考えられる。良いガバナンスの力を持つ先進国は国際的 NGO 組織と協力して発揮できれば、国際平和と途上国に大きく貢献できると思う。

NGO 組織が草の根レベルから当地の国民たちへ援助できるだろう。NGO を皮切りにセカンドトラック（second track）国際援助は現地の政治紛争を防ぎながら人道支援が実施でき、現地の人々のニーズに応じることができる。つまり、先進国の責任を負いながら、ソフトパワーを向上させ、各国に尊敬される国のイメージを浮かべることは実現されるだろう。こうした国際協力政策を通し、現在中東地域における憎悪の連鎖を断ち切ることもできると信じる。

③グローバル化時代の伝統と現代化の融合

グローバル化が進んでいく一方、経済格差と文明の衝突が大きくなってきた。したがって、グローカル化（glocalization）の発展は持続可能な開発の一環と目されべきだ。現地の伝統の文化と先進国のビジネスモデルの融合を通し、若者や貧困層の仕事を創造することができる。例えば、日本の NGO はカンボジアの文化を尊重しながら、「I Love Cambodia」のマークが付いた織物商品は海外各国で販売されている。海外援助政策は短絡的な便益費用計算ではなく、CSR（企業の社会的責任）の視点を取り入れた国際社会的責任を持つ援助政策を推進すべきだ。途上国の人々は織物の技術などを身につけて、自国の文化と現代化を融合することができて、文化の衝突を防げる。国際団体は先進国のマーケティングを通して、世界に現地文化を代表とした商品の販売を拡大させる。そして、一国内の格差ひいては先進国と途上国の所得差を縮小し、世界平和に大きく貢献できる。

人的ネットワークの構築を通じて、貧困問題とテロ撲滅が有効であろう。そして、若い世代の人材育成に重点を置きながら交流を進めることができる。人と人の繋がりには偏見を排除し、世界平和の柱になると考える。

4. 終わりに

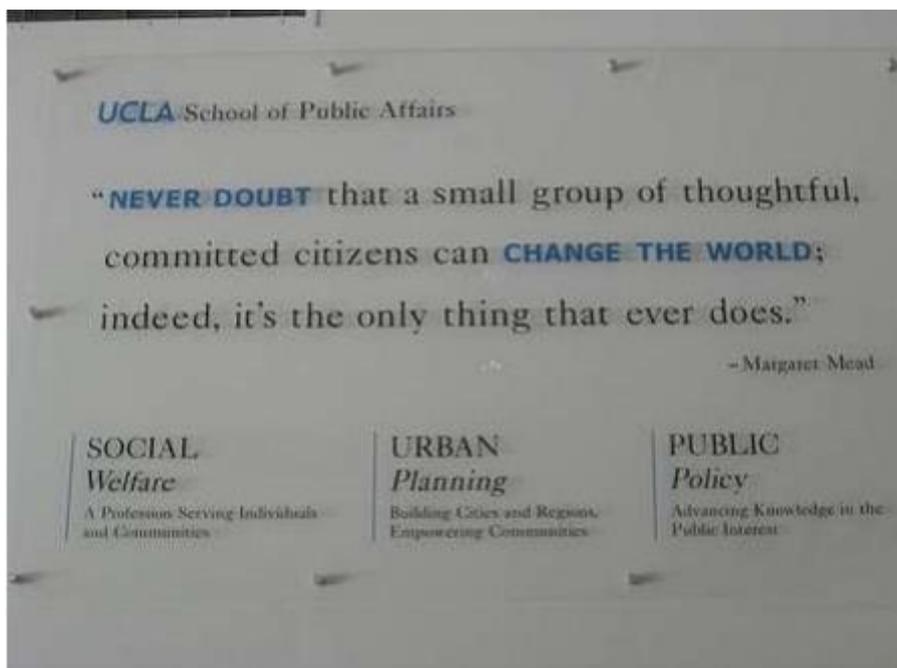
昨今グローバル化が進展する一方、貧困と格差問題が拡大しつつある。海外援助政策は先進国一方的な想いの押し付けではなく、途上国と地元の方のお互いの文化の理解と交流が必要である。私たちは同じグローバルヴィレッジで生活している。私は若者の希望を与えてくれている人的資本蓄積による持続可能な開発から草の根レベルの信頼関係までの国際協力が世界運命共同体を構築できると確信する。



1ヶ月間カンボジアで国際協力活動を行った



カンボジアの農村



米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校でサマーセッションの国際開発の講義

<河南の旋律：大調曲の歴史と魅力>

氏 名：路 達（ロ タツ）
任 命 年 度：平成 29 年度任命
出 身 地：中国河南省
在 住 地：東京（市）在住



皆さん、こんにちは。私は河南省出身の路達と申します。2024年の旧正月が近づく中、私は故郷である河南に戻り、母の友人を訪ねている最中、偶然にも日本の三味線に似た楽器を発見しました。調査した結果、この楽器は「三弦」と呼ばれ、元朝の時代に私の故郷に存在しており、これを基にして伝統的な戯曲である河南大調の誕生がありました。近年、地元の戯曲を学ぶ若者が減少しており、この伝統が失われつつある状況に直面しています。また、この楽器は日本の伝統的な三味線に非常に似ており、日本も後継者不足の状況にある可能性があるため、私は河南大調曲と三弦に関する書籍を調べ、京都に住む市民にこれら二つの楽器の歴史的な結びつきを紹介できればと考えています。

《河南大調曲》は河南地方の伝統的な口承音楽形式であり、米や元の時代に起源し、最初は開封で広まり、後に河南全土に広がりました。乾隆時代の中頃には、黄河の氾濫により商人と戯曲関係者が南陽に集まり、本来禹などで広まっていた鼓子曲が南陽で発展し、「南陽鼓子曲」とも呼ばれるようになりました。その発展の過程で、様々な加工と創造が行われ、異なる地域の戯曲との交流を通じて多様な特色が表れました。

写真：本人撮影。《河南大調曲》を演奏している親族たち、左から2番目の楽器は三弦。

時の流れと共に、
《河南大調曲》は何度か変遷を経てきました。清末時代には、曲調や形式が徐々に発展し、春節の期間に労働者が学びやすく歌いやすい「揚調」や「漢



江」などの小調を演じ、伝統的な語り口から脱却しました。伝えられるところによれば、臨汝県の朱万明が一部の小調を舞台に持ち込み、「小調高台曲」として形成され、この曲芸が一步踏み出すきっかけとなりました。解放後は毛主席の文芸方針の指導の下、《河南大調曲》は更なる発展を遂げ、各地で曲劇団が設立され、多くの素晴らしいプログラムが上演され、広大な群衆から熱烈な歓迎を受けました。

曲牌は板頭曲と牌子曲の 2 種類に分類されます。板頭曲は器楽の合奏曲や独奏曲であり、「打雁」や「高山流水」などが含まれます。牌子曲は大牌、中牌、鼓子雜牌の 3 種類に分かれ、様々な牌子の組み合わせにより豊かな物語が演じられます。伴奏楽器は主に三弦、琵琶、古筝などの弦楽器で構成され、特に三弦が重要です。

演唱形式では、大調曲子はかつては主に都市の小売商や手工業者によって歌われていましたが、後に農村のイベントで演じられるようになり、「坐板曲子」と呼ばれる形式が生まれました。これは農村のイベントでテーブルと椅子を並べ、生活の歌詞を歌う形式です。演唱形式は座って歌う、立って歌う、自ら弾いて歌うなど多岐にわたります。

大調の曲は三味線、琵琶、箏を主に使用する伴奏楽器が特徴で、これは河南、山東、安徽地域で流行した「絃索」の伝統を受け継いでいます。『詞戯』詞楽の一節には、「絃索」の重要性が詳細に記載され、河南の張雄、豊陽の高朝玉、曹州の安廷振、趙州の何七などの琵琶奏者、および曹県の伍鳳喈、亳州の韓七、豊陽の鍾秀之などの三弦奏者が言及されています。この「絃索」は歌唱の軽重や疾徐を制約し、差錯を防ぐ役割を果たしました。この伝統的な形式は現代まで続き、大調の曲からは欠かせない伴奏となっています。

写真：本人撮影。親族の家にある三弦。

大調の曲の伴奏楽器の中で、三弦が主要な役割を果たしています。かつては中鼓三弦（柄の長さ約 80 センチ）が一般的で、主に F 調と G 調が用いられました。女性演者の増加と曲の改編に伴い、現在では大調の曲の調律は主に D 調または C 調となり、多くの団体が大三弦を使用し、自弾自唱形式では小三弦が使われることが一般的です。これは調律の便宜性とパフォーマンスの利点があります。

伴奏方法については、大調の曲の前の時代には明確な規範が存在しませんでした。随腔弹奏と



フィルインなどの一般的な法則が存在します。随腔弾奏は基本的な伴奏形式であり、歌唱と伴奏が同じ旋律であることを指します。このプロセスでは、歌唱時の装飾音が伴奏中で省略されることがあります。フィルインは、三弦、琵琶、箏などの演奏技法、および中州古曲の独特の味わいを表現しています。これらの法則により、大調の曲の伴奏はより豊かで多彩になり、河南地域の民間文化の重要な構成要素となっています。

総じて、「河南大調曲」は豊かな発展の過程を経て、地元の特徴を受け継ぎ、河南地域の伝統文化において重要な一部となりました。

＜ 地元によるイグサでの伝統工芸 ＞

氏 名：アッスガイル アシール
任 命 年 度：平成 30 年度任命
出 身 地： サウジアラビア（東部・アハサ）
在 住 地：さいたま（市）在住



小さい頃に日本の昔ばなしのアニメを見ると、地元で井草から作られている「Midaad」に似たような敷物がよく見かけます。京都に留学した頃、それが「むしろ」という敷物だと教えてもらいました。まさか、同じ素材からできたものは遠く東にもありました。少し嬉しかった。伝統工芸の職人さんが減っていく中、この二つの文化をどこか結べたらなとずっと去年の夏から考えていました。

図 1 作業中の職人 ©alarabiya.net



“敷くと伸びる“から来ている名前「Midaad」を作る家庭が今 2 件に収まっている。

サーレ アル=ホメード
Saleh Al-Humaid は地元で有名な職人さん、長年の職業をもち、作ったものは幅広く使われていました。例えば、200 年前から 40 年近く前までは各地のモスク

図 2 Saleh Al-Humaid YouTube チャンネルの取材より



ク（礼拝場所）など隣の国まで（クエイト、カタール、アラブ首長国連邦など）に送付されました。現在は伝統な祭りへの出展や、飾り物などの使用に変わっていきました。

地元^{アル=アハサ}Al-Ahsaは砂漠にあるオアシスです。^{アルアスファル}Al-Asfar胡の周りに生える井草をとり、15日間ほどを乾燥させてから棗椰子の木からできた紐で結び使います。サイズはオーダーメイドで、長くて10mまで作れます。

図3 アルアスファル胡



去年の秋に倉敷で井草を使用している伝統工芸の職人さんと出会い、改めて天然素材の魅力を感じていました。

いつか、井草を使った間のもの、作品、プロダクトを作れたらなと思わせていただきました。

Reference:

図1 |

<https://www.alarabiya.net/saudi-today/2023/02/11/70->

[-عام-قضاها-سعودي-في-صناعة-المداد-،-هذي-قصته](#)

図2 |

https://www.youtube.com/watch?v=HtLI_2R_Huo

図3 |

<https://www.regencyholidays.com/blog/ar/بحيرة-الأصفر-بالأحساء-المملكة-العربية-السعودية/>

/

< 活動報告 >

氏 名：金 亦衛(キン エキエイ)
任 命 年 度：令和元年度任命
出 身 地：中国・上海市
在 住 地：京都市在住



今年は社会人になって4年目になりました。海外出張が多くなりましたが、京都で引き続き大使活動を頑張りたいと思います。

活動実績（2023年度）：

2023年7月13日 宇治田原町立田原小学校

2023年11月3日 公益財団法人全国社寺等屋根工事技術保存会

2023年12月5日 木津川市立木津第二中学校

2023年12月6日 京都市立中京中学校

2023年12月16日 京の架け橋ネットワーク事業

2024年1月22日 木津川市立加茂小学校

2024年3月11日 木津川市立泉川中学校



<外国人労働者の現状と課題>

氏 名：黄 媚陽（コウ ビョウ）
任 命 年 度：令和元年度任命
出 身 地：天津
在 住 地：東京都在住



日本の外国人労働者は過去最多の200万人超え

厚生労働省の「外国人雇用状況」の届出数値によると、令和5年10月末時点で外国人労働者数は2,048,675人、外国人を雇用する事業所数は318,775所となり、過去最高を更新した。国籍別では、ベトナムが外国人労働者数全体の25.3%で最も多く、次いで中国が19.4%、フィリピン11.1%の順であった。また、在留資格別では、「専門的・技術的分野の在留資格（主に「技術・人文知識・国際業務」「特定技能」など）」の増加率が最も大きい。次いで「技能実習」、「資格外活動（主に「留学」「家族滞在」など）」、「身分系在留資格（主に「永住者」「日本人の配偶者」など）」の増加が見られた。最後に、産業別にみると、「製造業」「建設業」の増加率が顕著であった。

近年、AI技術の活用が進んでいる。特に2023年話題になっていたChatgptが人々の関心を集めていた。しかし、AIの現れが人口減少による人手不足の解消にまだまだつながりにくいと考えられる。建設や医療福祉を含めあらゆる産業のサービスを成り立たせるためにも、人材の確保が一番の課題となっている。

人手不足の解消、若い人材の確保、グローバル視点での問題解決、海外進出、新規事業の創出、さまざまな観点から、外国人労働者受け入れの重要性が示された。

しかし、言葉も文化も異なる外国人は、日本で生活していく上で“悩み”はあるのだろうか。また、その“悩み”をどなたに相談すればよいのだろうか。

日本における外国人労働者の“悩み”

外国人労働者受け入れの拡大に伴い、さまざまな問題点と外国人特有の“悩み”が挙げられる。

東京都産業労働局の「令和4年東京都の労働相談の状況報告」によると、労働相談件数は46,269件、そのうち外国人関連の労働相談は2,181件であった。外国人労働相談の傾向は、「解雇」（718項目）が最も多く、次いで「職場の嫌がらせ」（470項目）、「労働条件変更」（386項目）となった。

令和4年10月、法務省の検討会「外国人に対する相談・支援の現状について」の中、“支援に関して望むこと”について調査報告がなされた（n=7,982）。「どこに相談すればよいかを適切に教えてくれる」が最も多く、回答の48%を占めており、次いで「オンライン（SNS含む）で相談に応じてくれる」が31%

の回答率が示された。そのほかにも、「丁寧に聞いてくれる」「ワンストップで相談できる相談先がある」「電話で相談に応じてくれる」があった。

言葉の勉強や文化差異の尊重などはもちろん、そのほかにも、社会的規範の理解、法律の遵守…外国人労働者は従事する仕事内容に応じて在留資格の変更更新申請をしなければならない。社会保険料・税金を適切な時期にきちんと納付する義務がある。他人にご迷惑をおかけにならないためにも、自分自身を守るためにも、文化、言葉、社会常識、基礎法律等の知識を学習し理解することが非常に重要だと考えられる。

近年、教育機関と都道府県の外国人支援組織と連携し、日本語の勉強会・異文化交流会の開催は積極的に行われており、大変充実されている。しかし、学校を卒業し社会に入った後、言葉と文化のみならず、職場のルール・人間関係・労働条件・社会保険料・雇用保険料・年金・税金等の理解も必要不可欠です。特に労働法に関わる部分の学習と理解がまだまだ十分ではないと考えられる。社会保険等の加入はもちろん、退職/解雇された時の失業保険の申請、各種社会保険の変更申告、身分変更の届出、在留資格の変更申請…“知らない”だけでは済まない。状況によっては自分自身の社会的信用度にもつながるだろう。

外国人支援における課題と解決法

上記に述べた通り、外国人労働者受け入れの拡大により、さまざまな問題点と課題が残っている。

外国人労働者側は、「基礎法律に関する“学習”が足りない」「相談場所がわからない」の課題が挙げられた。解決法としては、3つをご提案する。

- ① 積極的にネット検索をする（法務省、労働局、所轄の出入国在留管理局、ハローワーク等のホームページには最新の情報がわかる）
- ② 通信学校の利用、書籍の購入で法律知識を勉強して身につける。
- ③ 専門家と相談する（在留資格に詳しい行政書士、社会保険・労働法に詳しい社会保険労務士、税金の専門家である税理士）

上記のご提案のみならず、今の時代では Chatgpt の活用も非常に便利かつ迅速である。しかし、バージョンによって情報の時差があるため、参考程度でのご利用を視野に入れておいた方がよいだろう。

支援事業者側は、“基礎法律”を1つの着目点として、外国人支援をより包括的な支援活動が期待される。以下3つをご提案する。

- ① 外国人でもわかりやすい“基礎法律”に関わる交流勉強会の定期的開催
- ② 専門家による多言語相談窓口、オンライン相談チャットの設置を充実する
- ③ 外国人支援に関わる展示会の開催（個人、会社、学校、行政機関の出展を一体化する）

最後に

今後は、京都府名誉友好大使の一員として、少しでも役立つことができれば大変嬉しく思います。

参考文献：

法務省「外国人に対する相談・支援の現状について」

厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況まとめ「本文」（令和 5 年 10 月末時点）

NHK NEWS 外国人労働者初の 200 万人超で過去最多に（2024 年 1 月 26 日）

東京産業労働局「令和 4 年東京都の労働相談の状況」外国人労働相談

展示会「外国人総合支援ワールド 2023」

ウィルオブ採用ジャーナル 外国人労働者受け入れ問題とは？メリットやデメリット、受け入れ方法も解説

＜異文化交流を契機に＞

氏 名：王 艶文（オウ エンブン）
任 命 年 度：令和3年度任命
出 身 地：中国 河北省
在 住 地：京都市在住



去年の夏に4年ぶりに河北省・秦皇島へ帰省し、初めて万里の長城を登った。故郷の秦皇島は河北省の東北部の海に面する都市で、秦の始皇帝がここに駐屯することがあったので秦皇島と名付けられている。海はもちろん、山も森もきれいで、何より有名なのは万里の長城である。ところが、秦皇島で生い立っていた私はこれまで一度も長城に行ったことがない。「万里の長城がある街に住んでいるのに登ったことがない」のを反省してみると、その原因はやはり「見慣れる」ことにあると考える。

見慣れた景色だから、たとえそれが万里の長城であっても、ただ周りの無数の風景の中の一つに過ぎないと思ってしまう。あまりにも身近な存在であるため、特に登って、理解する必要性を感じていないのである。だが、やはり故郷のシンボルのようなもので、秦皇島について説明するたびに長城を言及していた。そこで、回を重ねて長城の資料を集めるなか、長城そのものに対する理解が深まって、長城がある秦皇島に対しても新たな感情を抱くようになった。

そして、今回帰国したら、まず長城を登ることにした。実際に山海関の城楼を歩き、古くから残った城壁に触り、長城の海に没する老龍頭を見学した後、歴史の重みを実感し、このような壮大な建物を作り上げた構想と技術に感嘆した。さらに、これからは他人の視点や感想でなく、自分自身の体験に基づいて長城はどのような存在であるかを皆さんに説明できると思うと、長城を登ること自体も特別な意味を持つようになっていた。

私にとって、長城の偉大さは、違う国に身を置いて初めて意識したものである。慣れてしまった長城の魅力を、他の文化に出会ったことをきっかけに再発見することができた。こうしたことも異文化交流の価値ではないか。ほかの文化への理解を促進するだけでなく、自国文化に慣れた心を刺激し、理の当然だと思ふことを考え直し、じつに身の回りの世界を再認識するきっかけだと思われる。慣れることによって自国文化への探求欲と好奇心を失ったときは、異文化と交流を図ろう。きっとよい契機が訪れる。

<手抓肉>

氏 名：王 哲（オウ テツ）
任 命 年 度：令和3年度任命
出 身 地：中国
在 住 地：京都（市）在住



手抓肉は、モンゴル語で「チャンサンマハ」は、モンゴルや内モンゴル、東北草原などの地域で広く食べられている料理です。現地の方に聞いてみると、「単純に骨付き肉を塩で煮る。長く煮れば肉がやわらかくなる」という、とてもシンプルな調理法が伝えられます。特に、暖かいゲル（モンゴル高原に住む遊牧民が使用している伝統的な移動式住居）の中で食べられるチャンサンマハは、秋口にかけて太った羊を冬の間重要な食料として取り扱われる重要な冬の食事です。（内モンゴル自治区ではシュウパウローと呼ばれます）

チャンサンマハは、塩と肉だけで調理されることが基本ですが、具材には遊牧民が身の回りで手に入る葱科の植物などをよく使います。一方、町中に住むモンゴル人は、塩と肉だけでなく、ジャガイモやボーズ（モンゴル風の餃子のようなもの）、生姜などの様々な具材を使ってチャンサンマハを調理します。また、肉を塩だけで食べるだけでなく、にんにく醤油や酢醤油、ポン酢風の調味料を添えて食べることもあります。

チャンサンマハは、羊の他にもウフル（牛）やツァー（トナカイ）を使って作ることもあります。肉はナイフを使って削ぎ落として食べるか、長時間煮込んで柔らかくなった肉はお箸で食べられるほど柔らかくなります。

チャンサンマハは、羊1頭を無駄なく食べるための料理であり、使う部位は決まっていません。肩肉、腿肉、臍肉など、様々な部位が使われます。各部位にはそれぞれ異なる歯ごたえや味があり、骨からしみ出るエキスも微妙に異なります。

また、チャンサンマハを調理する際には、地元の岩塩が使われます。内モンゴルの岩塩は、その結晶そのものが1億数千万年の歳月をかけて生成されたものであり、塩の奥行きと広がりを感じさせます。作り方に関しては、冷凍の肉を解凍し、大きめの鍋に水を入れて塩を加え、肉を入れて強火で煮るだけです。肉を茹でる際の塩の加減は、少し塩辛い程度が良く、中がピンクの状態になるまで茹でます。皆さんも肉買って試してみませんか。

＜福建と京都の茶文化比較＞

氏 名：楊 雅韻（ヨウ ガイン）
任 命 年 度：令和3年度任命
出 身 地：中国・福建省
在 住 地：京都（市）在住



福建省のお茶文化と京都の茶道文化は、それぞれが長い歴史と独自の伝統を持つ文化です。両文化の比較を通じて、中国と日本におけるお茶の文化的意義とその表現方法の違いを深く理解することができます。

福建省のお茶文化

福建省は中国お茶文化の中心地の一つであり、武夷山岩茶、安溪鉄観音、福鼎白茶など、多様な高品質のお茶を生産しています。福建省のお茶文化は、お茶の栽培技術や加工方法に大きな焦点を当てています。例えば、武夷山岩茶はその独特な岩石地形で栽培されることから、特有の鉱物質の味わいがあります。また、福建省のお茶文化では「功夫茶」という独特のお茶の淹れ方があり、その過程が非常に精緻で、お茶の香りや味わいを最大限に引き出すことに重点が置かれています。

京都の茶道文化

京都の茶道文化は、日本の伝統的な「茶の湯」に基づいています。『茶の美学』（田中仙翁）によると、茶道は単にお茶を淹れて飲む行為以上のものであり、それは一種の精神修養や哲学を含んでいます。一期一会の精神は、茶道の核心であり、すべての茶会が唯一無二であるべきだという考えを表しています。

異同点

① 生産と加工に対するアプローチ

福建省のお茶文化は、お茶の生産と加工に重点を置いており、特定の地域の気候や土壌が生み出す独特のお茶の風味を大切にしています。一方で、京都の茶道文化は、お茶を淹れる行為自体とその行為が行われる環境に重点を置いています。お茶の味わいだけでなく、そのお茶を淹れる過程やその過程で用いられる道具、そしてその空間が持つ美学が重要視されます。

② 精神性と哲学

京都の茶道は、精神性や哲学に深く根ざしています。一期一会の精神は、人生のはかなさと美しさを同時に称賛する日本独特の美意識を反映しています。

福建省のお茶文化にも独自の美学や哲学はありますが、それはより実践的なお茶の製法や飲み方に関連しています。

③ 社会的・文化的役割

両文化は、社会的・文化的な役割においても異なります。福建省では、お茶は日常生活の中での社交の場や家族の結びつきを強化する手段として用いられます。一方で、京都の茶道は、特別な茶会を通じて人々が集まり、精神性や美を共有する場となっています。茶道は、参加者が一時的に日常を離れ、精神的な静寂の中で自己を見つめ直す機会を提供します。

結論

福建省のお茶文化と京都の茶道文化は、お茶を中心に展開される文化でありながら、そのアプローチや重視する価値において大きな違いがあります。福建省ではお茶の生産と加工、お茶を淹れる技術が文化の核をなし、京都の茶道文化ではお茶を通じた精神性の追求と美の表現が中心となっています。これらの文化は、お茶を介して異なる文化的価値観や生活様式を反映しており、それぞれの地域の独自性と豊かな伝統を示しています。

参考文献

彭维斌 <闽南功夫茶的形成及对日本煎茶道的影响>《农业考古》2022年第5期
劉偉「日本茶道と中国茶芸の比較研究」愛知大学国際コミュニケーション学会編『文明 21 = Civilization 21』(41)、2018年

＜京町家の文化と経営と奉公人＞

氏 名：李帆（リハン）
任命年度：令和3年度任命
出身地：中国山西省
在住地：大阪市在住



去年には、京都文化について関心を持って、呉服屋である奈良屋杉本家の住宅を見学し、それを初めとする京町家の生活文化、呉服屋の経営についていろいろ調査した。

奈良屋杉本家は京都に本宅を置いて呉服業を営み、絹織物や太物を取り扱っており、関東地方に商圈を開拓した地方進出型の呉服店であった。初代新右衛門は40歳で奉公から独立し、京都で奈良屋を創業した。最初は京都で仕入れた商品を下総・常陸など利根川水系を中心とした市を廻って行商したのが始まりである。二代目の時に佐原に店を出したことによって奈良屋は営業活動の拠点を佐原に置き、次第に販路を拡大していった。杉本家に取り扱っていた呉服・太物・小間物等の商品は、京都での京商人から仕入れており、着物地の染めや練りが京都の専門に扱う店に依頼していた。それらの高級絹織物は主に陸上運送され、そのため販売地には在来の地方呉服商より奈良屋の方が質量良くて競争力が強かったのである。一方、地方絹の買い付けの勢力が弱まるに従って奈良屋は関東物をも取り扱って一定の利益を上げていた。江戸初期の販売法は呉服屋が得意先に出向い、後払いの掛売り方式であったが、奈良屋は明和年間に現金掛け値なし販売方式を導入して大いに繁栄した。また、反物を客の注文に応じて蔵の中から持ってくる方式が陳列場を増設して商品を展示するようになり、更に買い求める顧客に丁寧に対応する定め、万事屋的な機能も加わって奈良屋の出店は明治期に百貨店へと成長を遂げていた。

江戸期商家の運営にとって、奉公人は欠かせないものである。当主一家と奉公人が住む店舗とは別に居住しており、または主人個人が店舗内で奉公人と共に生活して経営する場合があるが、奈良屋杉本家の場合では店舗と住まいを重ねた住宅に当主と家族と奉公人が共に暮らしていた。奉公人のうち、店中の者と呼ばれる店舗の従業員である手代・小者と、生活の場で働く下女・下男に分けられる。手代は店表で商売を営む店員で、杉本家の史料によればその年齢は16歳から37歳程度であることが分かる。小者は手代の補助的な仕事を担当し、11歳から17歳で元服になると手代となる。下女・下男は家事労働や雑用を担当し、下女のうちに杉本家の子の乳母もいる。年齢を言うと下女は16～28歳、下男は23～40歳となっており、奉公人の職種によって年齢層が違うのである。なお、杉本家の奉公人の数は10名前後、多ければ18名に上ったこともある。

江戸時代の奉公人が雇われる時には、古文書学にも含まれる「奉公人請状」や「寺請状」を雇主に提出する必要があった。奉公人請状とは、奉公人の身元

を保証し、雇用条件を明記したものである。奉公人請状に雇用にあたって必要な事柄が一々記されており、中に雇用年限、出身以外、幕府の法令への遵守、悪事防止のための請人、解雇された場合の禁じ事等も付けている。奉公人請状に書かれている奉公期間は、店の表や家の奥に働く職種によって十年か半年の両種類がある。下女・下男の契約期間は半年で、働きぶりによって契約が更新できる。半年の場合のみ給料が明記されており、更に給料は職務内容・能力・経験による差がある。一方、寺請状は他所へ移動すると提出される檀那寺の身元を保証した送籍状である。奉公人の生活様子は杉本家の家訓から見られる。杉本家家訓の「定」に接客の態度や商品の管理、関東の出店への送信、店の勘定など販売に関する内容以外には、火の用心や戸締まりの徹底、奉公人の行儀など生活についても具体的に記されている。生活の面で特に強調されたのは、勝手な外出・遊興、派手な衣服を着用すること等が禁じることである。

店の奉公人の最終的目標は、「宿這り」を果たし、つまり奈良屋杉本家の初代新右衛門のように自営業者として創業し、または別家としてとして独立することにあつた。創業には元金の資本が必要に対し、別家の道も決して容易なものではなく、10代前半で小者として奉公を始め、元服以後に手代として店内の職階を昇進し、入店からおよそ二十数年経って重役まで勤め上げた者だけが独立を許されたのである。独立して別家を構える者には当家が祝義金等品々と店印を与える。別家になった後に、別の商売を始めることができ、またその子も本家に奉公し、別家の二代目を相続して行くこともできる。ただし、主家と血縁関係のある分家やよその他家と異なり、別家は主家の信用・名誉を損なう可能性がある場合にその象徴である店印・暖簾の使用を主家に差し止められることがある。別家となれる者は極僅かであり、奉公人の中は暇を出され（辞退）たり、病死してしまう人が多い。

奈良屋杉本家みたい京町家は、商い以外に、生産と居住も一体し、その住宅は、こうという性格上、その外壁は道に面し、隣の建物とは近接し、軒を連ねているという特徴をもっている。この住宅様式では往来の人との交流やふれあいが保証できる。道路に面した部分に店舗、その奥に居住用の建物を別々の棟として建て、両棟の間は中庭で隔てられ、細い玄関棟でつながっている。この建築様式は時代と共に変化し来たが、その生活伝統を保っている。

しかし、戦後から、京町家の数量は減らしつつある。京町家の生活文化が衰退する時点で、その保全・再生にめぐる検討が起こし、単に建物の文化財として保存するだけではなく、どうすれば京町家の住み、働き、学び、憩うことにあたる価値を継承・発展していけるのか緊迫な課題となった。町家の民泊化や観光地化などの対策が挙げられたが、それで以前の暮らしの営みが変わってしまい、更に近年、コロナ禍の原因でそれ以上の改善は困難となっている。筆者自身は、京町家文化これからの繁栄・発展を祈っている。



＜春節の締めくくり：元宵節の伝統と魅力を探る＞

氏 名：張 玥（チョウゲツ）
任 命 年 度：令和4年度任命
出 身 地：中国
在 住 地：埼玉県蕨市在住



最近、帰国して春節を過ごしたばかりで、非常に印象深い体験をしました。その経験をきっかけに、中国の春節の祝いの中で最後の環となる元宵節について皆さんに紹介したいと思います。この伝統的な祭りは、ただ家族が集まって美味しい食事を楽しむ時だけではなく、深い文化的意味と歴史的伝統を持っています。さあ、一緒に元宵節の魅力を探求しましょう。

元宵節（げんしょうせつ）は、中国の伝統的な祝日であり、春節（旧正月）の15日後にあたる正月15日に祝われます。この日は、旧暦の最初の満月の夜としても知られており、旧正月の一連の行事が終わりを迎える重要な一日です。元宵節は、中国本土や台湾、香港、マカオ、そしてシンガポールやマレーシア、ベトナムなど、中国文化の影響を受ける地域全体で盛大にお祝いされます。

今年の元宵節は2月24日にあたり、家族や友達が集まって、特別な時を共に過ごします。お祭りの風習では元宵と呼ばれるもち米で作られた甘い団子を食べることで、ゴマ、ピーナツ、タロイモなど、さまざまな種類の餡があり、お湯で煮たり、揚げたりして楽しめます。煮込んだ元宵は、そのもちもちとした食感と、口の中でじわっと広がる甘さが特徴です。一方、揚げ元宵は、外はカリッとして中はふわふわ、もちもち、お米の香ばしさと餡の甘さが絶妙にマッチして、とても美味しいです。それぞれの餡が持つ独自の風味があり、好みに合わせて選べるのも魅力の一つです。



図1. 元宵



図2. 揚げ元宵（本人撮影）

しかし、元宵節がただ美味しいものを食べる日だけではありません。この日

は、家族や友人との絆を深め、一年の幸せと健康を願う大切な意味も込められています。街は提灯で飾られ、獅子舞や龍舞のような伝統的なパフォーマンスが至る所で行われます。また、提灯に願いを書いたり、謎解きゲームに挑戦したりするなど、楽しい活動も盛りだくさんです。これらの行事は、子供から大人まで、すべての世代が一緒に楽しめるものです。

また、古代中国では元宵節が「恋人の日」としての役割を果たしています。この時期、社会的な制約が緩和され、特に女性たちにとっては、外に出て社会と触れ合う貴重な機会でした。厳格な儒教の規範と社会的慣習に縛られる日常から一時的に解放され、女性たちは家族や友人と共に外出し、提灯の飾られた街を歩き、様々な催し物やイベントを楽しむことができました。特に、提灯の下での偶然の出会いや、共に過ごす特別な時が縁結びのきっかけを作り出し、多くの美しい恋愛物語が元宵節に由来しています。これらの物語は、現代においても人々に語り継がれ、元宵節のロマンティックな側面も象徴しています。

元宵節は、過去と現在、伝統と現代性を繋ぐ架け橋として、中国文化の重要な一部を形成しています。この祭りは、人々にとって単なる年中行事ではなく、家族や友人、恋人たちが集まり、互いの絆を深め、新たな出会いや繋がりを祝う特別な日として、その価値を保ち続けています。

元宵節の習慣や伝統を理解することで、私たちは中国文化のユニークな魅力をより深く体験し、この祭りがどのように過去と現在、伝統と現代性の間の橋渡しをしているかを感じ取ることができます。ちょうど中国から帰国した私は、この祭りがもたらす喜びと暖かさを直接体験しました。この文章を通じて、元宵節の素晴らしさと、それが中国人の心の中で果たしている不可欠な役割を、より多くの人に理解していただきたいと思います。

引用元：

図 1

<https://pixabay.com/zh/photos/lantern-festival-sweet-dumpling-2056966/>

(無料写真素材サイト)

＜異国情緒が漂う上海＞

氏 名：陳 秋帆（チンアキホ）
任 命 年 度：令和4年度任命
出 身 地：中国上海
在 住 地：京都市在住



本文

私の出身地は中国の海岸線の中央に位置する都市、上海です。以前は「朱家角」という上海にある有名な水郷について紹介しましたが、今回は中国の伝統的なスタイルとは真逆の異国風の街並みに焦点を当てたいと思います。

まずは「外灘（バンド）エリア」です。外灘は、上海の旧租界時代の高層石造建築の宝庫です。特にここでは、新古典主義様式、アールデコ様式などの高層西洋石造建築が建ち並んでいます。20世紀前半まで欧米で流行した様式がここに集まっているため、外灘の建築群は「万国博覧建築群」とも称されている。黄浦江の西岸に位置する旧市街と、東岸に広がる新市街との対比が際立ち、外灘沿いに立つとまるで時代の境目に立っているような錯覚に陥ります。海関大樓や旧イギリス領事館など、歴史的な建造物がこの地域に点在し、異国情緒あふれる雰囲気が漂っています。



黄浦江西岸（外灘）



旧江海関大樓



旧イギリス駐上海総領事館

<https://www.china8.jp/shanghai/reportdetail/502.html> (2024年2月26日アクセス)



黄浦江東岸

<https://www.bthacks.com/3387/> (2024年2月26アクセス)

次に、上海の旧市街に残されているギリシャ風、ロココ調、日本風、ロシア風、アラビア式の古い洋館の中で、最も好きな「旧マーラー邸」について紹介したいと思います。「旧マーラー邸」は1937年に建てられたノルウェー・スタイルのシャトー風邸宅であり、内部には多数の部屋があり、迷路のように複雑に配置されています。室内装飾も非常に精巧であり、廊下や通路には羽目板があり、細やかな模様が彫刻されています。また、ステンドグラスが取り付けられており、太陽の光が差し込むと柔らかな色と光で包んでくれます。



旧マーラー邸

<https://4travel.jp/travelogue/10039082> (2024年2月26アクセス)

他にも、フランスやスペイン様式の南欧風建築物が軒を並べている武康路（旧フランス租界にある）などの異国情緒あふれる街があります。今後もし機会があれば、ぜひ「東洋のパリ」と呼ばれている上海を体験してみてください！

＜カルチャー・ギャップの間を歩きながら＞

氏 名：馬 韻婷（マ インテイ）
任 命 年 度：令和4年度任命
出 身 地：中国遼寧省
在 住 地：京都市在住



2017年の10月、私は中国から関西国際空港へ向かう飛行機に乗り、日本での留学生生活を始めました。翌年の春、私は京都大学工学部に入学し、卒業した後もそのまま大学院に進学し、現在はすでに私の京都生活は6年目となります。

実は、中学校のとき日本に旅行したことがあり、当時からすでに京都の風景や文化に惹かれ、京都に留学したいと思っていました。そのため、最初に日本へ留学しに来た時は何もかもが斬新で、非常にワクワクする毎日を過ごしました。大学の授業以外にもサークルに入ったり、文化祭に参加したり、多彩な大学生活を体験しました。また、京都大学は留学生向けの活動が充実しているので、留学生の研修旅行や茶道体験、華道体験など様々な活動に参加できました。大学以外でも京都の歴史古蹟を観光することや神社の初詣、お祭りの手伝いなどを通して、日本人だけではなく各国から来た留学生とも言葉を交わす機会がありました。

しかし、言葉の壁や母国の文化、習慣の違いなど、たまに自分の行動に自信を持てなくなり、カルチャーショックを受けることもありました。そんな時はいつも同じ留学生の立場の友達と交流し支え合い、または日本人友達からも日本の文化についてもより詳しく理解できようになりました。学業も忙しいですが、残りの学生時代をより有意義に送りたいと、休みを利用して国際プログラムやボランティア活動などにも参加しています。今年もこのような経験を活かして、京都名誉友好大使の会長として様々な交流活動を主催しました。

カルチャー・ギャップの間を歩きながら、私は知らずのうちに異文化を受動的に受ける側から、異文化と積極的に交流し自発的に発信する側になりました。京都で過ごした時間は私の今までの人生の中で一番成長した時期であり、それゆえ自分に自信を持てるようになりました。今も日本に、京都に留学しに来てよかったと思っています。

＜京都名誉友好大使と府民との「つながり」へ＞

氏 名：尹粹娟（ユンスヨン）
任 命 年 度：令和4年度任命
出 身 地：韓国
在 住 地：京都（市）在住



「私は韓国人です。」単なる国籍を表しているこの自己紹介のセリフは、京都府名誉友好大使の活動の際により多様な意味合いを含むこととなります。その多様な意味の中での一つは、「京都名誉友好大使から府民との「つながり」、であると私は考えています。それとは韓国と日本との「つながり」、異なる文化同士の「つながり」であり、また府民ひとりひとりと私との「つながり」でもあります。

京都名誉友好大使として私は、これまでの活動においてこの「つながり」を府民と共有してきました。「異文化および韓国文化」「日韓関係の新しい観点」などをテーマに京都府所在の学校で講演会をしたことがあります。講演会を準備することは、思った以上の工夫が必要でした。というのはこれまで自分にとって「当たり前」だった韓国の文化、思想、日韓関係などを思考の対象として相対化し、それを学生や府民に伝える作業だったからです。またこのように「当たり前」だった韓国のあらゆることを正確に把握して伝えることは、一方的な伝達ではありませんでした。そこには京都府名誉友好大使の話聞いて興味を含めた違和感、異なる文化の深層を接した際の異質な感覚などを府民のみなさんから素直に伝えてもらう「つながり」もあったのです。

このような相互的な「つながり」は、その時とその場において限られたものではありません。府民から伝えてもらった感想をまた自分の中で消化し、次の活動において活かせることもできました。また府民のみなさんが感じた違和感はその時とその場のものだけではなく、府民ひとりひとりがこれまでに蓄積してきた知的な働きに、新しい刺激を感じ、より広い世界へ視野を広げていくきっかけになったと思います。

京都府名誉友好大使と府民との「つながり」は文化や思想などを媒介にお互いへの理解、さらに多様な生き方との共存という土台を作るものでもあります。京都と世界という観点からこの「つながり」という土台は、より深みを増していくと思います。

<友好大使として>

氏 名：李 沫（リ マツ）
任 命 年 度：令和4年度任命
出 身 地：中国河北省
在 住 地：京都市在住



名誉友好大使になってから更に多くの交流活動に参加できました。

大使の研修会でお茶の京都エリアに行ったとき、お茶の手もみ作業や郷土料理の「茶汁」を体験し、この私たちがリレーで揉んだ手もみ茶、ほかに玄米茶もいっぱい飲みくらべました。今日カフェイン摂取量はもうすぐ限界だねってみんなは冗談を交わしました。また、登り窯見学をして、その後工房では土もみや土の成形、絵付けなどを体験しました。一つ一つのことを丁寧に面白く説明していただきました。

これらの地元の方々の優しく力強く伝統の技法を守って伝承する姿に深く感心しました。若者たちも一緒に、地元の方々とともに伝統を守ると同時に、その優勢を発揮し、イノベーションによって新製品の開発にも努力しています。

そして、地元のおばあさんからピンクでかわいいネコヤナギの枝をいただきました。家に持ち帰って頑張ってその世話をしました。

大使活動として、また学校で講演をすることがありました。私は小学校、中学校、高校へ講演しに行ったことがあります。学生たちの元気なところ、賢いところ、優しいところにとっても感動しました。私の伝えたいことをしっかり受け取ってくれ、更に講演にもサポートしていただきました。常に皆さんから元気をいっぱいいただきました。

ほかに、府民交流フェスタにも大使として活動したことがあります。豊かな自然に囲まれながら、主催者側の一員として、多文化共生を体験してもらいたいことが目標で、仲間たちと協力し、来場者たちと交流ができたのではないでしょうかと、とても誇りを感じました。ちなみに、休みの時間に友達たちとフェスタのほかのコーナーでも少し遊びました。

職業や地域にとらわれず、様々な人と出会い、様々なことを体験し、良い影響をもらって、少しでもより良い自分になって、また少しでも周りに良い影響をあげられたのではないかと思うことに、本当に誇りに感じ、とても嬉しく思

っています。

大使活動、またほかの機会で様々な交流活動に参加したとき、色々な人、色々な事との出会いはほぼ全て一期一会だと思いました。ですので、毎回の機会を大切に、これらのことを人生の宝として記憶に残したいと思います。今まで出会った全ての方々、全ての事々に感謝を申し上げたいと心から思っております。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

<久しぶりの故郷・大連>

氏 名：王艶蓉
任命年度：令和5年任命
出身地：中国遼寧省大連市
在住地：京都府京都市



2月2日、中国では「小年」と呼ばれる日です。その日、家族や友人との再会の場で、涙が溢れ出るだろうと想像しながら、4年ぶりに、故郷に帰る道に立ちました。

乗り継ぎの南京では、細雨のせいで大連行きの便は延着してしまいました。深夜23時頃、ようやく大連に着きました。馴染み深い訛り、冬の海風、なぜか目が潤みました。

出口に、父と母は待っていました。母は「親愛な娘、おかえり」とメッセージカード付いている大きな花束を抱えて、遠くから私を呼んでいました。父の白髪は四年前より増えて、私と目が合った瞬間、父の目は赤かったです。

車が移動していた間、窓から覗いた風景は記憶の中のと変わったような、変わっていなかったような感じがしましたが、その美しさは相変わらずです。



出典：BAIDU 百科で掲載されている大連の夜景の写真

私の故郷大連は、中国の遼東半島の最南端にあります。海に囲まれるロマンチックな海浜都市です。海辺で生まれ育たれていた私にとって、故郷の海は生命の中で不可欠な一部です。

私は私の故郷—大連の海の美しさを、文字の前の君と、一緒に満喫したいのです。

さて、行きましょう。

バスを乗って、市内から離れている「夏家河子海浜浴場」で、冬の氷海の絶景を望みましょう。

凜烈の冬海風が吹き、雪に覆われた砂浜から氷海を眺めて無限の白さが目に入ってきます。まるで極地にいるようです。晴れる時に、空の青色が氷面の白色と相まって、その美しさに震撼されます。曇りの時、末日のように感じ、全

てを忘れて広闊な氷面で踊りたくなるでしょう。



一息をついて、市内に戻りましょう。次は「東港」です。

広場を通過して、海の景色が段々と近づいてきます。周りに観光自転車を乗っている家族の姿、響く子供の笑い声、群れになった鴉は近くに寄ってきてまた上空に飛んでいきます。海辺のフェンスに寄り掛かって、静かにこの平和の風景を楽しみます。

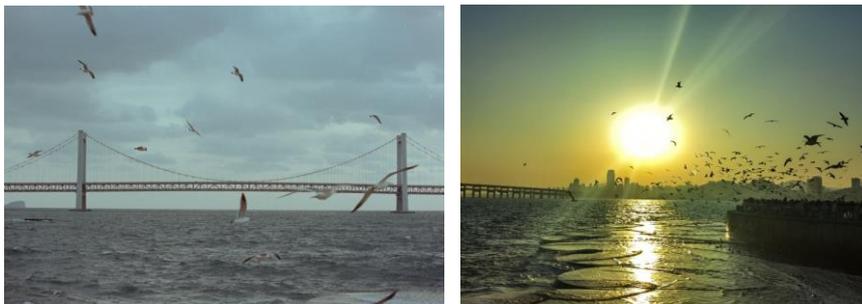
もう少し左に歩きましょう。聳え立っている高層ビルは霧の中で滲んで見えます。この港町はいくら繁忙でも、海の存在は、人々の気持ちを落ち着かせるでしょう。



最後、大連の名地、「星海広場」でこの旅に句点をつけましょう。

星海広場でベイブリッジを一望できます。今は、日の暮れる頃です。夕日は海に沈んでいき、潮は少し優しくなり、水面が微風で、細やかな波が立ち、魚鱗のように光ります。目の前のベイブリッジも輝くように見えます。

広場に遊園地があり、冬でも温かい雰囲気溢れます。ベンチに座り、温かい飲み物を飲みながら、夕日と共に一日の疲れが海に沈んで、消えていきます。



長い旅、お疲れ様でした。

大連は、いつでも京都の皆様を待っています。
いつか来てください。

注：2枚目から4枚目の写真はカメラマンの友達：何清さんからいただいております。

<京都と私>

氏名：孫 鑫（ソン シン）
任命年度：令和5年度
出身地：中国山東省・青島市
在住地：京都市（4月から東京都）在住



2018年に初めて京都に来てから、既に6年間も経った。高校卒業した直後に来日した未熟な私にとって、自分の人生における価値観や性格を形作る最も大切な時間は、全部京都という地と共有し合って過ごした、と言っても過言ではない。この京都府名誉友好大使に任命されたのは、まだまだ半年前のことだったけれども、今回のレポートでは、半年間友好大使として活動する中で感銘を受けた2つのことについて書いていきたい。



まず、左側は私が友好大使に任命されたばかりの2023年7月に、宇治田原町立小学校での写真である。内容としては、普段やっていることだったり出身地の文化だったりを紹介するものだったが、初回の活動になるので、楽しみながらもすごく緊張していた。

しかし、実際に教室に入って1時間くらい子供たちとおしゃべりとゲームをしていたら、

何でか自分もこのクラスの一員になったような感じがしてきた。学校の廊下でも、初対面なのに弟や妹みたいに挨拶をしてくれた子がいたので、私が一方的に話とかプレゼンとかをしたのではなく、子供たちからも、「自分がやっていることにやりがいがある」という元気をもらった。この意味で言えば、年齢等で隔たりを作らずに、人と人との関わり合いの大切さを改めて認識した。

次の写真は、同じ2023年7月に、友好大使として参加した武家茶道体験&「京の架け橋ネットワーク事業」大交流会での記念撮影である。しかし今回は、イベント自体よりも、イベントで出会った人と物語が一段と強く印象に残っている。というのも、今回の大交流会では、私は初めてキーウから日本に避難してきた学生と、身をもってコミュニケーションを取れたからである。もちろん、京都で学んでいる留学生に対する支援策等をめぐって議論するのも楽しかった。ところが、食事会で初めて避難民専用の証明カードが見せられ、戦争で避難を

余儀なくされた話を実際に聞いた時、平和への願い、および友好大使という身分に対する理解がよりいっそう深まった。



私は6年前、留学で京都に来たけれども、日本での何もかも初めてなので、不安でいっぱいだった。今の自分は、就職で4月から東京に住所を移すことになったので、再び当初の私と同様に新たな節目を迎えている。しかしいずれにしても、この6年間の中で、京都で経験したことと京都が培ってくれた感性は、無論のこと私を私たらしめる一部となっているのであり、今後も永らく私を導いていくのだと信じている。

＜「観光障害」についての考察

—ザルツカンマグートと京都を手掛かりに— >

氏 名：Patrick Vierthaler
(パトリック・フィアターラ)

任 命 年 度：令和5年度任命

出 身 地：オーストリア

在 住 地：京都市在住



はじめに

2015年から京都市内に住み、趣味として京都の神社仏閣をめぐる私は、ここ数年で中国人による「爆買い」現象、インスタグラムなどのSNSの人気増加とそれに伴う特定の洛北にある寺院の急な混雑、伏見稲荷大社の参拝客の著しい増加、コロナ禍の衝撃とその中の観光のあり方に関する議論、それから2023年以降の観光客の復帰を目撃し、経験してきた。

同時に、私の出身地であるザルツカンマグートは京都に匹敵する有名な観光地であり、今年の「ヨーロッパ文化の都」に指摘された。オーストリア国内で観光のあり方に関する議論と言えば、必ず出身地が議論対象となる。私の家族は3世前から、湖と氷山の景色が綺麗な名所前のレストランとペンションを経営し、今現在、お母さんがスキー場の入り口のすぐそばにある食堂を経営している。それ以外も、親戚で観光業界に関わる人が大勢おり、子供のころから観光地の裏部隊で過ごしてきた。

京都とザルツカンマグートをつなぐ一つの現象はオーバーツーリズム、つまり「観光障害」である。本稿では以上のような個人的な背景に、「観光障害」の問題に関するいくつかの考えを整理し、京都とザルツカンマグートの議論における共通点について論じる。

何よりも、京都の観光障害は京都ならではの問題ではなく、世界各地の観光地で起こっている現象だと強調したい¹。それと関連して、SNSの普及による一

¹ 例えば、イギリスの『The Guardian』の「Wish you weren't here: the photos that show an hour in the life of 'quiet' tourist hotspots」という記事を参考にすれば、世界各地の観光障害の様子の写真が確認できる。URL：
<https://www.theguardian.com/travel/2022/aug/20/how-beauty-spots-would-look-if-tourists-all-visited-at-once-in-pictures>

部観光所の急な人気増加とそれに伴う無責任な観光客の渡来も指摘されている²。ドイツ語では英語の言葉を借りて、これらを「Instagram Hot Spot」と呼ばれるようになった。

観光名所における類似の歴史

それでは、京都とザルツカンマグートの観光の歴史はどのような点で共通性があるのでしょうか。まず、私の出身地であるザルツカンマグートは山の他に湖が多く、19世紀から有名な観光地となっている。当時はハプスブルクの皇帝が毎年、避暑しに夏をザルツカンマグートにある離宮で過ごした。そのため、有名な作曲家や画家、知識人を始めとした人々はもちろん、都会の市民も多くも「綺麗な風景」を満喫しに夏に来てた。

そして、20世紀になって、飛行機や車の普及で海の人気が高まることにつれて、イタリアなどの海岸部に行くことの人気が高まって、アルプスでの避暑は一時的に年寄りの楽しみになってきた。しかし、1990年代以降世界遺産の制度ができることや、2010年代以降のSNSの普及に伴い、山に行くことが再びおしやれになり、若年層の観光客が再び増えはじめ、以下に述べるように観光障害に繋がったと考えられる。

次に、京都も、類似の歴史があるように見える。明治時代になり、観光都市京都が整備され、桜や紅葉を見に京都にくる観光ができたが、戦後の高度成長期になるとその人気は下がった。修学旅行で京都を訪れる人が多かったことに対し、大人になってわざわざ京都の寺院や庭園を見に行くほどの魅力はなかった。

しかし、日本でも1990年代になってから、京都の人気が再び上昇した。その背景に、京都の観光業界を活性化するために始まったJRのポスター・キャンペーンがある。もちろん、この時点では誰も「観光障害」を口にしなかったが、京都における観光障害の原点が当時のポスターが創ったイメージにあると言っても無理はなかろう。結果的に、具体的な経緯を述べる余地はないが、京都でもやはり2010年代に入ってから「観光障害」が問題になり、その背景にSNSの普及とそれに伴う観光のあり方の変化があるように見える。

観光障害現象における共通点

①観光障害に至る経緯

ザルツカンマグートも京都も、同様のケースが他にも多数あるが、上述のことを二つの具体的な対比から考えよう。まず、オーストリアにあるハルシュタット村(Hallstatt)と京都市右京区にある嵐山の竹林の事例である。ハルシュ

² ドイツ南部では例えば、バイエルン州にある Königssee で京都と類似の問題が挙げられる。
<https://www.br.de/berge/bergtour/alpiner-overtourism-massenansturm-instagram-hot-spots-gebirge100.html>

タットは湖に面した村である。岩塩が取れるため、人類史が 7000 年前までに遡り、ヨーロッパにおける鉄器時代の一部が「ハルシュタット時代」と呼ばれるぐらい、ケルト人の遺跡がある。岩塩がとれるのは元々は海の底であった。そのため、人類史のみならず、地学的な観点から、(世界文化遺産ではなく)世界自然遺産に登録された。なお、嵐山は京都の洛西にある地域であり、平安時代から貴族の別荘地の他、少なくとも明治時代からは観光の名所である。

20 世紀後半からは、ハルシュタットも嵐山も、それぞれの国では観光名所である。そして近年は SNS の普及に伴い、観光障害を代表する地域になった。ネットで有名な「看板写真」(図 1・2)を見て、それと同じ風景を撮る以外に関心がない人が著しく増えた。両方の地域に長い歴史と特徴があるにも関わらず、大半の観光客はその点を無視してしまう。このような観光は地元の経済の創生に繋がらないだけでなく、いつの間にか混雑が激しくなり、地元の人に不便を伴う観光障害が出た。

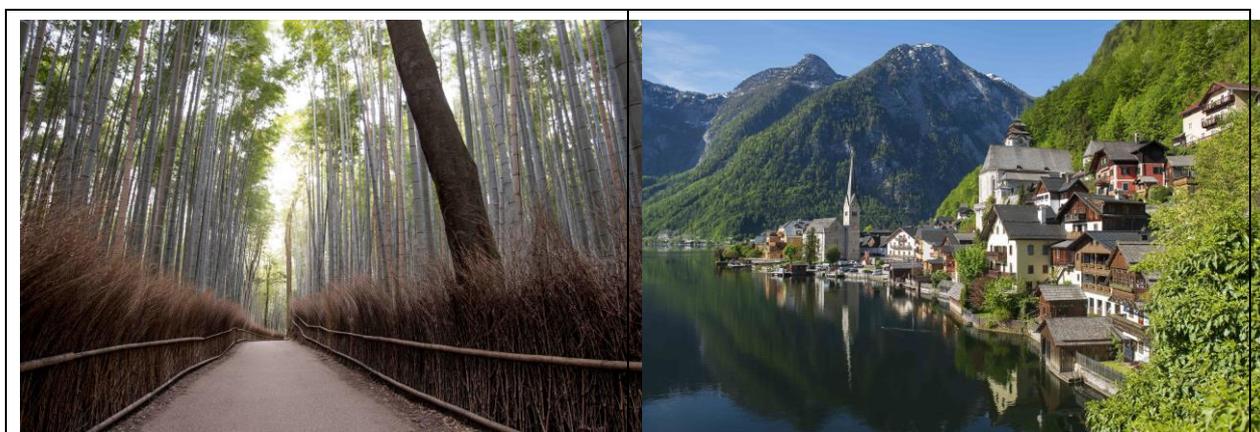


図 1・2 コロナ禍で人がいなくなった観光障害の名所。京都市にある嵐山竹林(左)とオーストリアにあるハルシュタット村(右)。筆者による撮影

もう一つの具体例として、SNS が生み出した新名所を二つ紹介したい。まず、私の故郷にあるゴーザウにある Hinterer Gosausee の湖と洛北にある瑠璃光院を対比する(図 3・4)。前方はゴーザウの谷の裏にある湖からおよそ 90 分のハイクでたどり着く山奥にある湖である。昔から家族連れには人気があったが、アクセスが簡単ではないため、ハイキングしに来る人以外は知らなかった。だが、2010 年代半ばになり、その湖の北側から撮影された写真を地元の人に見せ、その場所のアクセスを聞く人が急増した。90 分のハイクであり、地元人の注意にも関わらずサンダルのみを履いたまま出発し、結果手に救助隊が出向かなければならないケースが次々と起こる。

京都では、SNS の普及により、一番と言っても過言ではないぐらい人気が増した一箇所として、八瀬にある瑠璃光院が挙げられるであろう。瑠璃光院も、昔から有名であったわけではない。かつては料亭であり、お寺になってからも、2013 年までには洛北の穴場であった。中心には 2 階建てがあり、その 2 階からお庭が眺められる構造になっている。そして、部屋の中には写経をするための

机が置かれていた。しかし、いつの間にかこの写経机から見た紅葉のリフレクションの写真が SNS に投稿されると、この光景をみるために瑠璃光院に参拝する人が徐々に増え始める。2017～18 年になると混雑が始まり、その結果、整理券と予約制が導入され、現在に至る。今や瑠璃光院は「必須スポット」の一つとなり、SNS で見た同一の写真を撮るために来る人が一日に南百人も来る。

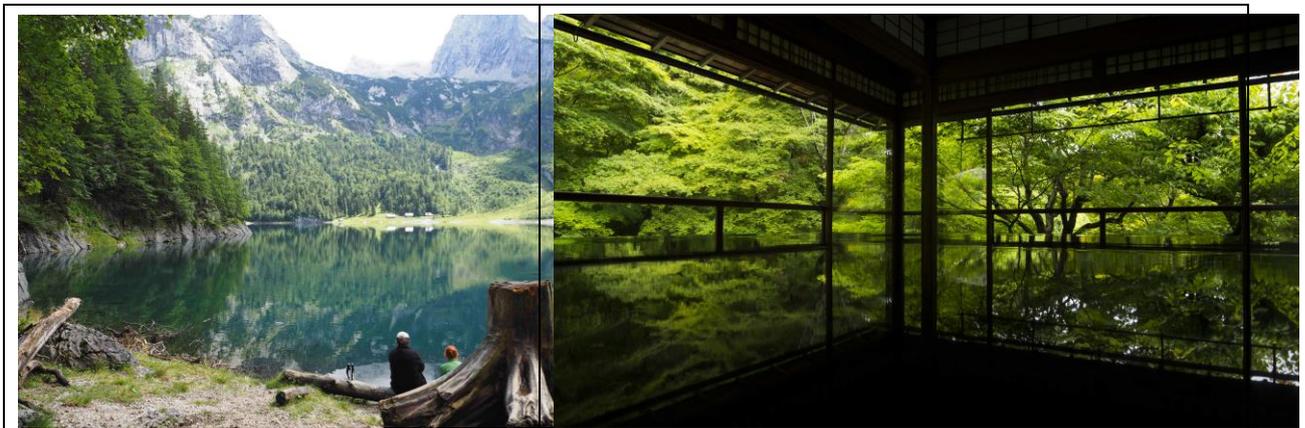


図 3・4 SNS が生み出した二つの新しい名所。オーストリア、ゴーザウ村にある湖（左）と京都市の洛北にある瑠璃光院の写経机（右）。いずれも数年前までは観光名所ではなかった。

②観光障害をめぐる議論

ザルツカンマグートでも、京都でも、2010 年代後半ごろから観光障害に関する議論が出たように見える。いずれも、混雑をどう避けるかがポイントになった³。また、また、中国人観光客が非常に増えたため、あたかも「観光障害=中国人観光客」のような議論に展開した⁴。議論される最中、コロナ禍になり、混雑は一時的解消され、問題が解決されたように見えた。しかし、「中国人が来てないため、今しか味わえない」という談論が広がり、国内の観光客が急増したことである⁵。

しかし、コロナ禍が落ち着き、海外からの観光客の受け入れが再開されると、いずれもコロナ以前と同様の軽快が戻った⁶。2020 年以降の 2～3 年間という観光再編のチャンスをあたかも逃したかのように見える。そのため、観光のあり方を上から変えることがどこまで可能かについて、疑問を抱かざるを得ない。

³ 例えば、「Hallstatt wehrt sich gegen Massentourismus」『ORF』2019 年 6 月 11 日。

⁴ オーストリアの公共放送局では 2018 年 9 月 20 日に Am Schauplatz（現場にて）の番組で「Die Chinesen kommen」（中国人がやってくる）という題目で、ハルシュタット村における観光障害に関する番組が放送された。

⁵ 2018 年のルポに続き、2020 年 5 月 28 日に Am Schauplatz は「Hallstatt ohne Chinesen」（中国人がいないハルシュタット村）という題目で、コロナ禍以降の変化をテーマにした番組を放送した。

⁶ 「Hallstatt wehrt sich gegen Touristenansturm」『ORF』2023 年 8 月 19 日。

おわりに

観光地で暮らす人からすると、観光客が来ないと経済が回らない。国籍を問わず、観光客が大勢複数の観光名所に集中して押し寄せてくることが問題の根本であるはずだが、観光の場所的な集中化及び SNS の写真をマネする形式の観光になれば、観光自体が問題化される。こういう点では、京都とザルツカンマグートの観光において、興味深い共通性があるように見える。

それでは、観光障害にどのように対策すべきであろうか。かつてに京都市と同様の観光都市サミットが開催され、最近、観光税の導入などの議論が世界各国で見られる。しかし、趣味としての写真家の私が考えるように、何よりも、今現在のメディア環境、つまり観光客の情報源を把握する必要があると思う。政治側や観光業界側のみでの解決は不可能ではないかと思う。

最終的に、観光客が分散するように情報を発信し、訪れる地域の多様な歴史と文化を体験できるような手段を提供する必要があるだろう。しかし何よりも、観光障害対策は観光客自身で始まるべきであろう。旅行に出ようとする際、誰もが行く名所のみに行くのではなく、現地に行ってから情報を入手し、それに基づいて行動を試してみることである。

<地元文化を守る第一歩は？>

氏 名：彭唯一
任命年度：令和5年
出身地：中国 太原市
在住地：京都市在住



「日本に来てから、あなたの出身国、あるいは出身の地域が日本と一番違うと感じたことはなんですか」と京都府名誉友好大使の面接に聞かれた。その時に、「文化財を守る意識」と答えた。

なぜかという、京都に在住しているうちに、金閣寺や三十三間堂などの大事な文化財の所を行ってみれば、それらの本体をしっかりと守られている上に、定期的に修繕を行っていることが分かった。一方、中国で一番多い地上の文化財を持っているふるさとである山西省は日本のように守っていないとはっきり感じられたため。

その違いを生じた原因を気づいたきっかけは、主に大使として活動したときに出会った方々の姿である。

京都市についての研修で、私は家族旅行で「天橋立」に行った。一番印象に残っているのは、風景はもちろん、宮津市の人々から感じられた「誇り」の気持ちである。天橋立に泊まっていた旅館が提供している朝食を食べているときに、スタッフさんは宮津市の名物である「コシヒカリ（米の品種の一つ）」のおいしさをしっかり味わえるように、ご飯へのこだわりの説明と何回もあった「お代わりしましょうか」の尋ねに感動した。

また、ある活動で京都市のある高校の高校生たちと近距離で話せる機会があった。将来行きたい大学を聞いた時に、「具体的な大学がまだ決まっていないけど、地元のがいい」とか、「大学は地元ではない所に行きたいが、就職の時には地元に戻りたい」と答えた学生たちは約7割であった。実は、高校だけではなく、私の大学の多くの日本人学生でも、就職先は地元か、地元に近い所にしたい方が多かった。

天橋立のスタッフさんでも、学生さんでも、いずれも彼らから生まれ育った故郷の風土や文化に対して抱く好意的な感情という「地元愛・郷土愛」を感じられた。

山西省に生まれ育ちの私は、山西省に「地元愛・郷土愛」を持っているかという、21歳まではあまりなかった。

悲しいことだが、それは事実である。

留学してから、太原市はどんな所ですかをさんざんに聞かれた時、石炭の産地で、あまり発展していないことですという回答がほとんどであった。さらに、小さい頃で、夏休み中にどこ旅行しに行きたいかと両親に聞かれても、山西省以外の都市がいいとずっと答えてきた。

では、なぜそういう私になったかという、地元あまり知らなかったから。

「地元愛・郷土愛」のことを気づいてから、山西省についていろいろ調べた。そこから、中国文化の発祥地の一つとして、盛りたくさんの文化財を持っている所である。由緒ある建築だけで、28,000 個以上を持っていて、代表の一つをあげると、「応県木塔（おうけんもくとう）」という 1056 年に建てられ、世界古代史上最高層の木造建築がある。また、豊かな自然環境のため、「小麦粉」の産地であり、山西省の麺の種類だけで、300 種以上あることが分かってきた。

山西省を詳しくなかった自分に恥ずかしいと感じた。

今年帰省した時は、省内旅行行ってみた。



応県木塔



山西省長治市通天峽

[https://www.wikiwand.com/zh-hant/%E4%](https://www.wikiwand.com/zh-hant/%E4%BD%9B%E5%AE%AE%E5%AF%BA%E9%87%8B%E8%BF%A6%E5%A1%94)

[BD%9B%E5%AE%AE%E5%AF%BA%E9](https://www.wikiwand.com/zh-hant/%E4%BD%9B%E5%AE%AE%E5%AF%BA%E9%87%8B%E8%BF%A6%E5%A1%94)

[%87%8B%E8%BF%A6%E5%A1%94](https://www.wikiwand.com/zh-hant/%E4%BD%9B%E5%AE%AE%E5%AF%BA%E9%87%8B%E8%BF%A6%E5%A1%94)

しかし、「地元愛・郷土愛」を持っていても、文化財をしっかりと守れることはできない。

なぜかという、「地域愛着」も必要となるからだ。

「地域愛着」とは、大森¹⁾により、日常生活圏における他者との共有経験によって形成され、社会的状況との相互作用を通じて変化する、地域に対する支持的意識であり、地域の未来を志向する心構えと述べている。つまり、この地域を愛着するだけでなく、この地域がよりよくなるために、様々な分野から貢献したい気持ちであり、内面から湧き出るものを指している。

確かにその通りだと考える。

この地域を長く持続できるために、地元の住民たちの一人ひとりの思いや行動が大切だと考える。

故に、地元の文化を守る第一歩は、地元の文化を知り、さらに誇りの気持ちを持つことである。

大使をはじめ、地域の一人ひとりでやるべきことだと考える。

参考文献：

大森純子，三森寧子，小林真朝，他(2014)：公衆衛生看護のための“地域への愛着”の概念分析．日本公衆衛生看護学会誌，3(1)，40-48.

(<http://www.pubnurse.med.tohoku.ac.jp/aichaku/research/concept/index.html>)

< 京都市内景観論争を経て保存すべきか変化すべきか >

氏 名：Mai Anh Thu (マイ アイン トウ)
任 命 年 度：令和 5 年度任命
出 身 地：ベトナム
在 住 地：京都市在住



I. 京都タワー及び京都駅ビルに景観論争

大正 8 年(1919)、日本では旧都市計画法により風致地区制度が創設された。京都府(2024)は、「風致地区とは、都市の風致を維持するために、良好な自然環境を保持している区域、史跡、神社仏閣等がある歴史的な町並みを有する区域などを、都市計画法に基づき定めた地域地区の一つ」と説明している。昭和 5 年(1930)、京都市は風致地区指定に指定され、明治 47 年(1972)には全国で最も早く市街地景観条例を制定し、景観行政のトップランナーとして景観保全へ取り組んでいた。

景観を守ってきた京都の現在では、古都の街並みを味わいたいため京都へ訪ねる人が少なくない。その際に、遠くから必ず京都タワーを目にし、京都駅に足を運ぶ。そのように現在の人々にとって、京都タワーも京都駅ビルも「京都」の面になったという。

しかし、京都タワー及び京都駅ビルが建てられた当時には、建築界でも民間でも批判の声が多く上られた。その理由は「京都にふさわしくない」である。

京都タワーは、山田守という建築家により創建された。山田守について、建築評論家の長谷川堯は「晩年にあの悪名高き京都タワーをデザインしたひと」と語った。昭和 39 年(1964)に完成した京都タワービルは、当時京都の建物に関する高さ制限は 31 メートルに 9 階で抑えめたビルであった。しかし、同年の 12 月にそのビルの上に 100 メートルのタワーが開業された。京都タワービルが着工した時には、タワーの計画は公開されず、開業してから発表された。この後、京都タワーに対し、「建設という名の破壊」や「建設という名を借りた一種のバンドリズム」「調和のできるはずがない生硬な化物」「愚かな風致自殺」などの批判が見られた。また、京都タワーの開業がきっかけに、昭和 39 年(1964)に「京都を愛する会」が設立された。タワーに関する新聞などのメディアの批判以外に、「京都を愛する会」が文化財保護委員会などに対し、京都景観を破壊するような京都タワーへの撤去や改装などの指導が望ましいと要望した。

京都タワーのほか、京都駅ビルについても多くの批判の言葉を浴びてきた。京都駅ビルに関してはいくつかの問題が挙げられたが、その中心に最も注目されたのは「高さに関する問題」であった。それまでの京都は、建築物の高さを

抑えたことによって京都の景観を持続してきたしてきたが、京都駅ビルのように高さの制限を緩和すればその「京都らしさ」が失うのではないであろうかと思われる人が多くいた。しかし、京都らしさは「高さ」のみによって生まれたわけではなく、建築物の「デザイン」も非常に重視された。当時京都駅ビルの「高さ」も「デザイン」も京都にはふさわしくないと批判された。

II. 保存すべきか変化すべきか

この京都タワー及び京都駅ビルの景観論争に関し、この2つ建築は今でも京都の恥であると思っている人もいるであろう。しかし、京都における現在の京都タワー及び京都駅ビルの存在価値は否定できないと考える。具体的には、映画や小説、漫画などにシンボルとして京都駅や京都タワーを導入することが多く見られる。

確かに京都タワー及び京都駅ビルは一見では京都らしくないと考えられるが、京都の歴史の背景をみると、このような変化が避けられないものであろう。実際に、京都市内には明治時代より多くの近代建築が建て始められた。そのため、京都は明治時代より既に新しいものが現れた。京都タワー及び京都駅ビルの「高さ」について、確かに京都の景観からみると非常に目立つ。しかし、建物の高さが制限された京都の街並みを中心から眺められるのは、京都タワーこそである。そのため、京都を楽しめる観光客にとって、京都タワーは外せない場所の一つであろう。

また、京都駅ビルは日本国内にも珍しい鉄骨造の駅である。京都といえば木製建築というイメージが一般的であろうが、その伝統木製建築と近代化を現す鉄骨造の調和が非常に良く考える。なぜなら、1960年代後半から京都は多くの外国人観光客を迎えた。その国際交流を受け入れながら、京都は開発せざるを得ないであろう。そのため、「京都の玄関」と呼ばれた京都駅は、それらの外国人観光客を迎え、どこか落ち着きがありながら新時代を感じさせる。これから見る京都の街並みと大きいな「差」があることも非常に良いではないかと考える。

伝統、又は古き良きものは、ただ守るだけでは後世につながらないと考えている。なぜなら、そこには確かに昔人々の想いが残っているが、現代の人々の想いが入れられないと、それらの古き良きものは単に「見る」存在になってしまうのではないであろう。

参考文献

京都タワー株式会社（1985）『京都タワーの歩み 創業二十五周年誌』京都タワー株式会社

井上章一（2011）『京都洋館ウォッチング』新潮社

倉方俊輔（2021）『京都近現代建築ものがたり』平凡社

京都タワー株式会社（2009）『京都タワーの歩み 創業50周年誌』京都タワー株式会社

<歩みたい道>

氏 名：毛 嘉琪 (モウ カキ)
任 命 年 度：令和 5 年度任命
出 身 地：中国江西省
在 住 地：京都市在住



大学院の博士後期課程の 3 年間は学生としての最後の学園生活になりますので、悔いが残らないようにしたいです。少々欲張りなところもありますが、研究も、部活も、大使活動も全力で楽しんでいきます。たまに、「我が道を行く」「やりたいことをやっているだけじゃない」と言われることもありますが、ただ好きな道を進むだけではなく、自分の選択や行動に責任を持ち、その結果を受け入れることも必要です。

自分の歩みたい道をはっきりと判明したのが、数年前のことでした。祖父の墓参りの帰りに、急に調子が悪くなり、食べたものを全部吐き出して、血まで吐きました。その血を見た瞬間、自分はもう長くないと悟り、次に走馬燈が見えてきました。脳裏に浮かんでいたいろいろなことの中で、大切なのは二つだけでした。「一、両親がまだ生きてるので、私が先にいってはいけない！二、まだ博士号を取っていないのに、死ねない！」という謎の組み合わせの執念で、死なないように頑張ってきました。

人は恐怖や危機を直面する際に、体内時計の進み方が速くなり、時の流れが遅く感じるが、実際に脳は多くの情報を処理できるという研究結果があります。血を見た僅か 2~3 秒の間、過去 20 何年よりも自分の人生を考えた気がします。後から分かったが、人生の分岐点とも言えるその吐血は内臓が悪いとかではなく、ただの鋭い嘔吐物が喉を切ったからです。種明かしすれば笑えるくらいの出来事でしたが、当時の私がまさに死を覚悟し、遺恨を悔いでいました。

好きな哲学者の言葉ですが、最も必要とされているものが一番目を向けたくないところで見つかります。(That which you most need will be found where you least want to look.) 自分の死なんて考えたくなかったけど、直面したら本当に大切なことを気付かせてくれました。

生死の狭間に彷徨う経験なんて、なかなかないでしょうし、今こうして生きているのも、この上なく贅沢で幸運だと思います。勘違いかもしれませんが、せっかく拾った命で、悔いのない生き方をしようと決めました。それは博士号を取り、親孝行をしっかりすることです。いまは留学生生活を充実させて、できるだけ周りを助けることも加わりました。せめて次の死ぬ間際に、悔いを減らしておきたいです。



冥々のうち、私を導いてくれた祖父に感謝を（母・おば撮影）

<中国の新年（旧正月）について>

氏 名：李佳誠（リカセイ）
任 命 年 度：令和5年度任命
出 身 地：中国・上海
在 住 地：京都市在住



日本では、お正月という伝統的な祝日が存在している。お正月の時、家族と一緒にお節料理を食べたり、紅白歌戦を観たりする。また、子どもたちが年上の家族メンバーから、お年玉をもらったりするというさまざまな習慣がある。そして、中国でも日本と似ている祝日が存在している。中国語で「春節」と呼ばれている一方、日本語で「旧正月」と呼ばれている。最近、私は中国に戻り、家族と一緒に旧正月を過ごした。以下、自分が体験した経験に基づき、日本の「お正月」と中国「旧正月」を比較しながら、中国の旧正月の習慣を紹介する。

まず、中国の「旧正月」の食事について紹介する。日本では、大晦日の時に、家族と一緒に「お節料理」を食べるという習慣がある。その「お節料理」は、普段にあまり食べられない高級な料理や寓意がある料理が多いと考えられている。例えば、エビや鮑、黒豆などである。一方、中国では、大晦日の夜に食べるものは「年夜飯（ねんやはん）」と呼ばれている。日本と同じように、年夜飯の中身は高級料理や寓意がある食べ物などにより構成されている。その違いとは、料理が箱に入れるのではなく、お皿に載せられている。個人が自分に分けられたものしか食べられないのではなく、多くの料理を家族全員が一緒に食べるということである。また、年夜飯の中に、寓意がある料理が多く存在している。例えば、手羽先の料理は「大鵬展翅」という名が付けられている。この料理を食べたら、鵬のように、自分の目標に向けて飛んでいけると言う寓意がある。（年夜飯の写真は次のように示されている。）

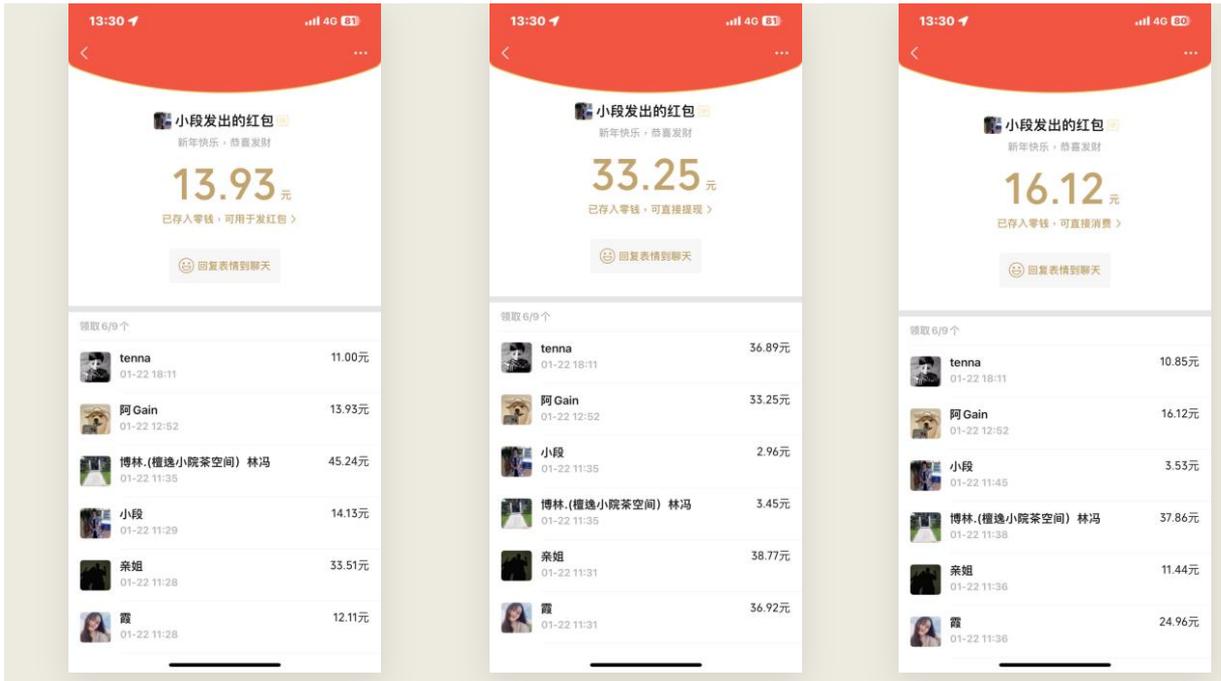


そして、中国の「旧正月」の番組について紹介する。日本では、大晦日の時に、家族全員が NHK の「紅白歌戦」をみると言う習慣がある。この番組では、主に歌手が歌を歌っている。一方、中国では、大晦日に見る番組は CCTV の「春節連歡晚会」と言うことである。この番組では、歌を歌うのみならず、魔術、民族踊り、お芝居、京劇、武術、曲芸など様々なパフォーマンスがある。そして、「春節連歡晚会」がただの娯楽だけではなく、政府はこの番組を利用し、過去の一年の功績をアピールしている。また、パフォーマンスを通じて、中国の国民たちに同一的な価値観や民族意識を宣伝し、強化している。民族の団結や統一が守られている。そのため、春節連歡晚会は、娯楽的な番組であり、政治的な番組でもある。(次は 2024 年の春節連歡晚会の写真である。)



(<https://www.163.com> により)

最後に、中国の「旧正月」のお年玉について紹介する。日本のお年玉は、主に白い封筒に閉められているものが多い。一方、中国のお年玉は、赤色の封筒に閉められているものが多い。なぜなら、中国の文化では赤色が幸運や繁栄などのことを意味しているからである。赤色の封筒でお年玉を渡したら、家族の子どもたちが将来幸運になり、健康になるという寓意がある。最近、電子マネーの普及により、現金のお年玉がますます少なくなり、電子マネーで渡す人が多くなっている。また、簡単にお年玉を渡すのではなく、家族メンバーたちが一緒にお年玉を“奪う”と言うゲームの形が流行っている。(電子マネーのお年玉が次のように示されている)



<色とりどりの多民族国家>

氏 名：LOW JING CHONG
(ロー ジン チョン)
任 命 年 度：令和5年度任命
出 身 地：マレーシア
在 住 地：京都市在住



私：「マレーシアに行ったことがある人はどのぐらいいますか」

生徒たち：「しーん...」

私：「じゃあ、マレーシアという国を聞いたら、どのようなイメージが頭に思い浮かびますか」

生徒たち：「暑いところ」「」「えっと、分かりません」

以上は私が実際に日本の小中高学校で母国について紹介する際によくある光景である。母国に離れ、改めて母国の特別さに気づきました。それは「多民族国家」のことである。私にとって、母国の一番特別なことは「多民族国家」のことである。マレーシアの人口は様々な人種、民族、宗教から構成されています。中にはマレー系と先住民（マレーシアの原住民は59の民族から構成されています）が約6割、中華系が約2割、インド系が約1割、外国人住民が約1割を占めます。また、マレーシアではイスラム教を国教としながらも、それぞれの信仰が認められています。ひとつの文化や宗教に統一されるのではなく、それぞれが独立して融合しあう社会は世界のなかでも稀有な存在である。他にも仏教、ヒンドゥー教とキリスト教が信仰されます。そして、マレーシアには137の言語が存在し、主な言語はマレー語、英語、中国語、タミル語である。ただし、公用語はマレー語となります。



Fig.1 マレーシアの民族：左からマレー系、中華系、インド系、先住民の一つであるイバン系 (Google Image より)



Fig.2 マレーシアの主な宗教：左からイスラム教、仏教、ヒンドゥー教、キリスト教（Google Image より）

こんな多民族国家ですが、いくつか多民族国家ならではの光景やことがあります。それは「マレーシア人は基本的に2つか3つ以上の言語が喋れること」「マレーシア人同士の会話では、1つの言語だけでなく、様々な言語の言葉を混ぜながら会話をする人が多いこと」「街中の看板から映画の字幕まで様々な言語が書かれること」「民族ごとのお正月の際に休みがあるので、休日が多いこと」などのことがあります。

そして、マレーシアの首都クアラルンプールでは、毎年七月にクアラルンプール日本人会、クアラルンプール日本人学校、在マレーシア日本国大使館により海外では最大規模とされる盆踊り大会が開催される。1977年からマレーシアでスタートしたこの盆踊り大会は、地元の人々に受け入れられ、毎回3万人以上が集まる日馬友好イベントに発展しました。世界最大規模の盆踊り大会の一つに数えられ、やぐらの周りで踊りを楽しむ人々の熱気と、その盛り上がりぶりは圧巻である。マレーシアと日本の文化を結ぶ大切な行事となりました。



Fig.3 イベント会場の Panasonic stadium にて、5万人で賑わった 2023 年度の盆踊り。

（KL 日本人会 HP より）



ORGANISERS - The Japan Club of Kuala Lumpur • The Japanese School of Kuala Lumpur • Embassy of Japan
 IN CO-OPERATION WITH - (BY ALPHABETICAL ORDER) • Alumni Look East Policy Society (ALEPS) • Japan Graduates' Association of Malaysia (LAGAM) • The Japanese Chamber of Trade & Industry, Malaysia • Tourism Selangor Sin Sdn
 SUPPORTED BY - The State Government of Selangor • Invest Selangor Berhad • Petrosains Stadium Malaysia



Fig.4 2022年度盆踊りのポスター
 (The Star HP より)

Fig.5 東方政策40周年記念の公式ロゴ
 (Embassy of Japan in Malaysia HP より)

そして、親日国であるマレーシアでは、「ルックイーストポリシー」あるいは「東方政策」という言葉があります。それは1981年にマレーシアのマハティール前首相が提唱した構想で、日本及び韓国の成功と発展の秘訣が国民の労働倫理、学習・勤労意欲、道徳、経営能力等にあるとして、両国からそうした要素を学び、マレーシアの経済社会の発展と産業基盤の確立に寄与させようとするマレーシア政府の政策である。私が今京都に留学出来るのは「ルックイーストポリシー」のおかげと言っても過言ではない。この政策の下で、私は留学生として受けられ、日本人の考え方や価値観、日本文化を深く理解するチャンスを得ました。

さて、京都府名誉友好大使の一員として、いつか皆さんに直接母国の多民族を紹介できる日を楽しみにしています。Terima kasih dan jumpa lagi!



Fig.6 作者がマレーシアの日本語学校に通っていた頃の友人たち (撮影)



Fig.7 作者と京都に住まれるマレーシアの方々 (2023年11月25日)

日：2016年11月15日)

参考文献：

[1] My Government, The Government of Malaysia's Official Gateway, Malaysia Information, <https://www.malaysia.gov.my/portal/category/86> (観覧日：2024年3月1日).

[2] THE JAPAN CLUB OF KUALA LUMPUR, イベント, 盆踊り, https://www.jckl.org.my/events/bon_odori (観覧日：2024年3月5日).

[3] Embassy of Japan in Malaysia, Dasar Pandang ke Timur, Look East Policy, <https://www.my.emb-japan.go.jp/Japanese/JIS/LEP/top.html> (観覧日：2024年3月5日).



京都府

京都府国際課

Tel : 075-414-4316 FAX : 075-414-4314

E-mail : kokusai@pref.kyoto.lg.jp

☆友好大使の活動や友好大使が感じた京都留学の情報を
発信しています。

京都留学情報 <http://studykyoto.wordpress.com/about/>



京都府名誉友好大使自主活動実行委員会ブログ

<http://kpfa1992.blogspot.jp/>

京都府名誉友好大使友好大使 facebook

<https://facebook.com/KPFA1992>